

PLEXTALKProducer DAISY作り方ガイド

DAISY作りの流れ

事前準備

データの取り込み

様々なファイルから文字データや画像データを取り込みます

DAISY編集

章/節/項などの見出し情報やページ情報を付加します

テキストの編集

テキスト情報やルビを編集・修正します

音声の編集

音声合成の読み間違いを修正したり、肉声録音/編集をします

製本 (ビルドブック)

書誌情報を付加し、DAISYファイルに変換します

DAISY完成

DAISY用語 ①

● セクション

ある見出しから次の見出しの直前までを「セクション」と呼びます。DAISY 図書は、1 個以上のセクションから構成され、セクションは1 個以上のフレーズから構成されます。

● 見出し

セクションの先頭フレーズのことを「見出し」と呼びます。見出しには、そのセクションの題名が入るように設定します。現在どのセクションを再生しているのかを、利用者が確認するときに利用されます。

● レベル

セクションにはレベルと呼ばれる値があり、DAISY 図書検索に利用されます。レベル1からレベル6まで設定することができ、レベル1が最も高く、レベル6が最も低い設定値です。

例えば見出しの構成が「章・節・項」から成る図書であれば、「章」をレベル1 に、「節」をレベル2に、「項」をレベル3に設定します。

あるセクションをレベル1に設定した場合、次のセクションはレベル1かレベル2に設定します。レベル1の次にレベル3を設定することはできません。

● フレーズ

テキストDAISY やマルチメディアDAISY を再生した際に、1 回でハイライトされるテキストの範囲を「フレーズ」と呼びます。製作物によって分かち書き単位や、句読点単位でフレーズを設定します。

DAISY用語 ②

● ページ

「ページ」は、利用者がDAISY 図書の検索時に利用するものです。製作者は「ページ」の切れ目（開始点）となるフレーズに対して、「ページ」を付けることができます。

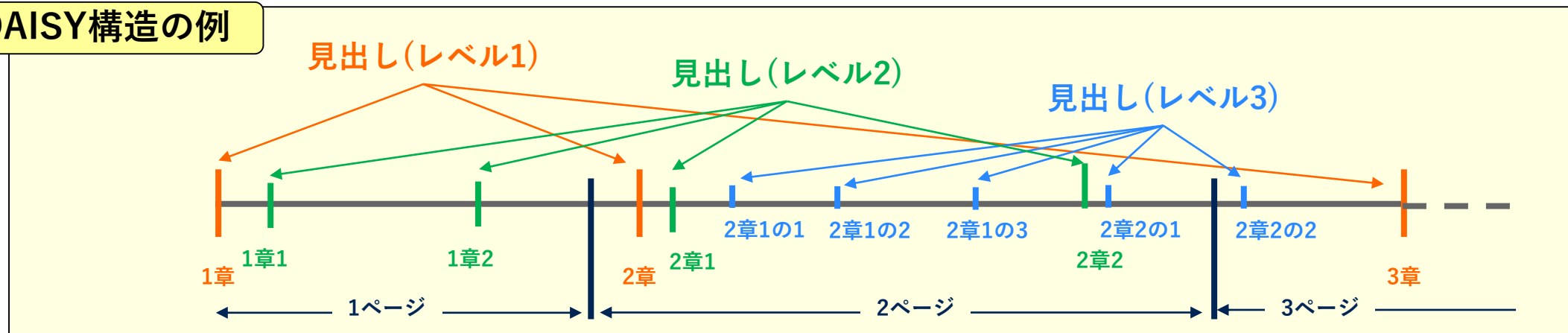
● 飛ばし読み

「飛ばし読み」は、DAISY 図書再生時に利用するもので、ページなどのフレーズを飛ばして読ませることができます。製作者はページの他に注番号・注釈・製作者注・サイドバー・アノテーション・行番号の6種類を設定できます。再生環境によっては、飛ばさずに読むこともできます。

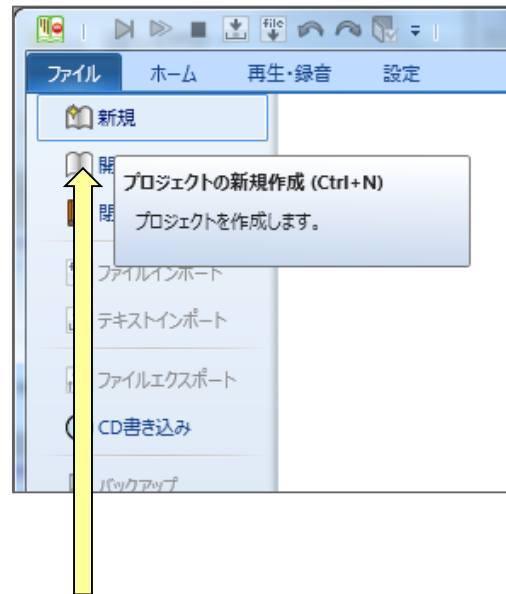
● ビルドブック

「ビルドブック」は、編集を行ったプロジェクトからDAISY /EPUB 形式に製本することを言います。

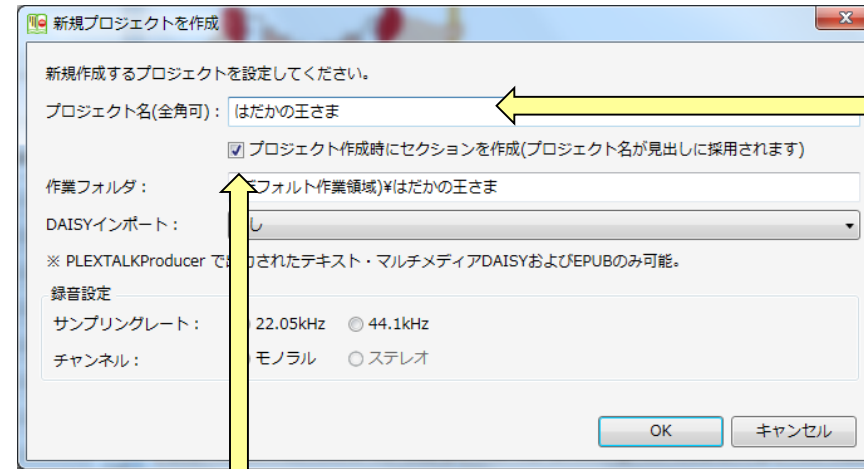
DAISY構造の例



● プロジェクトを新規作成しましょう



「ファイル」から「新規」を選択



題名を入力

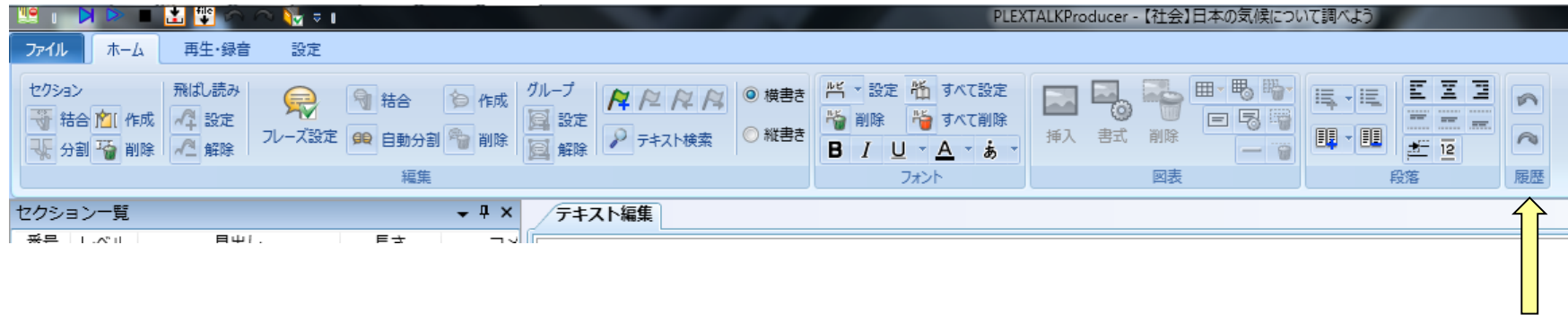
チェックを入れると題名が見出しに自動的に設定されます（レイアウトツールで見出しを設定する場合はチェックを外します）

プロジェクトファイルとは？

1つの図書のテキスト/音声/編集情報を、1つの「プロジェクト」として管理しているファイルがプロジェクトファイルです。プロジェクトは取り出して保管したり、他のパソコンで編集することもできます。読みの困難さなど個別のニーズに応じて再度編集したい場合は、取り出して（ファイルエクスポート=38ページを参照）保存しておくくと便利です。

操作を間違えてしまったら

- 履歴「元に戻す」と「やり直す」を使いましょう



ホームタブの右側に「履歴」があります。
過去の20作業を記憶しています

履歴について

PLEXTALKProducerでは、過去20の操作を記憶しています。操作を間違えたり、前に何を行ったかわからなくなった場合は、ホームタブの履歴「元に戻す」「やり直す」を使ってみましょう。

注意：履歴はクリーンアップやビルドブックをすると消去されます。大きな変更を加える前には「バックアップ (40ページを参照)」するとより安心です。

PLEXTALKProducer画面の構成

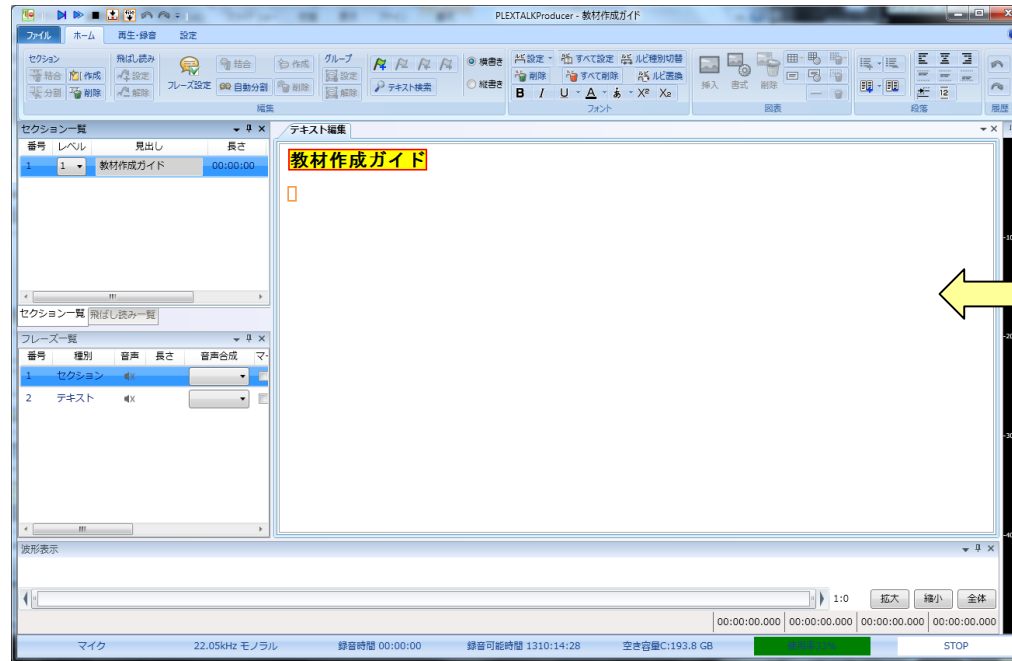
● 画面構成を確認しましょう (Producer画面)

① リボン形式
のメニュー

② セクション
一覧

③ フレーズ
一覧

④ 録音音声
波形



⑤ テキスト編集

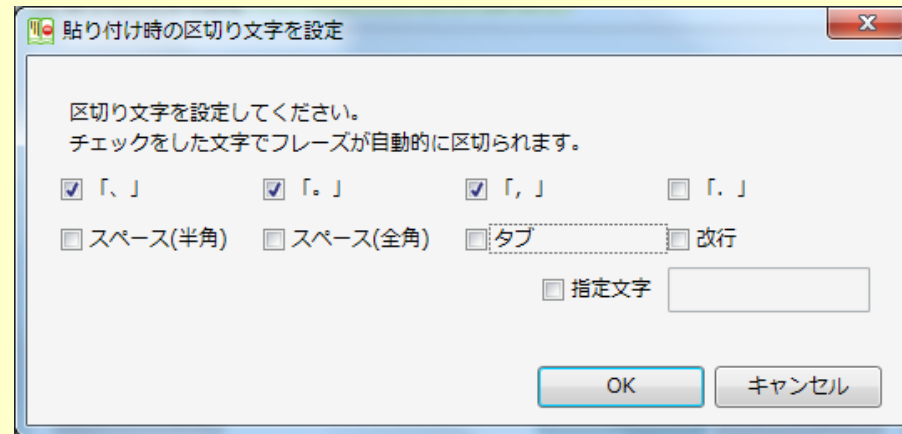
⑥ レベルメータ

- ① 上部のタブを選択すると、それに関連した項目を選択できるようになります
- ② DAISYの特長の1つ「見出し」を一覧表示します
- ③ 一つのハイライト範囲を「フレーズ」と言います。フレーズを一覧表示します
- ④ 録音音声 (肉声など) がある場合、ここに音声波形が表示されます
- ⑤ テキストや画像の状態を確認・編集する画面です
- ⑥ 録音する際に、録音音量を確認するための画面です

ハイライトする範囲の自動設定

区切り文字について

PLEXTALKProducerでは、テキストを取り込む際にフレーズを自動的に区切ることができます。個々のニーズや取り込む素材の種類に応じて設定を変更すると便利です。

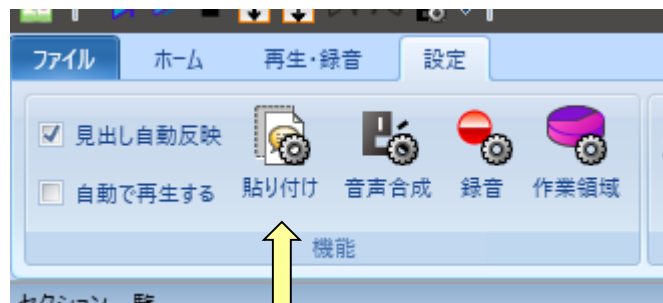


(例1) 分かち書きで書かれたテキストを取り込む際にスペース（半角）またはスペース（全角）にチェックを追加すると、分かち書き単位でフレーズが区切れます。

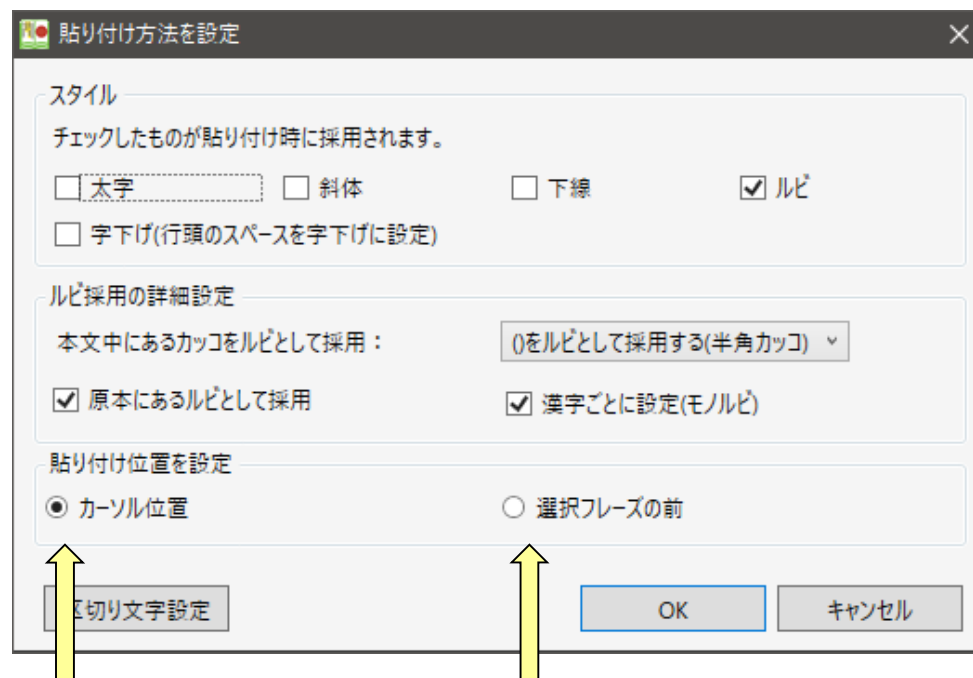
(例2) 例えば指定文字にカギ括弧閉じる（」）を入力してチェックを追加すると会話文の終わりでフレーズが区切れます。その際は直前の句点では区切れないように自動判別します。

PLEXTALKProducerの区切り文字設定は① レイアウトツールからの取り込み、② Word等からのコピー＆ペースト、③ テキスト一括取り込みの3種類があり、それぞれ個別に設定が可能です。

- 貼り付け位置について テキストを貼り付ける際に挿入される位置を選択することができます



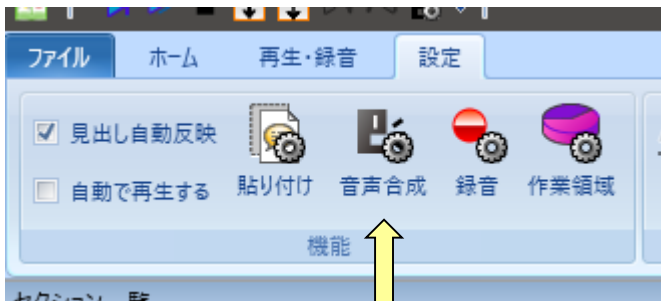
設定タブの「貼り付け」を選択



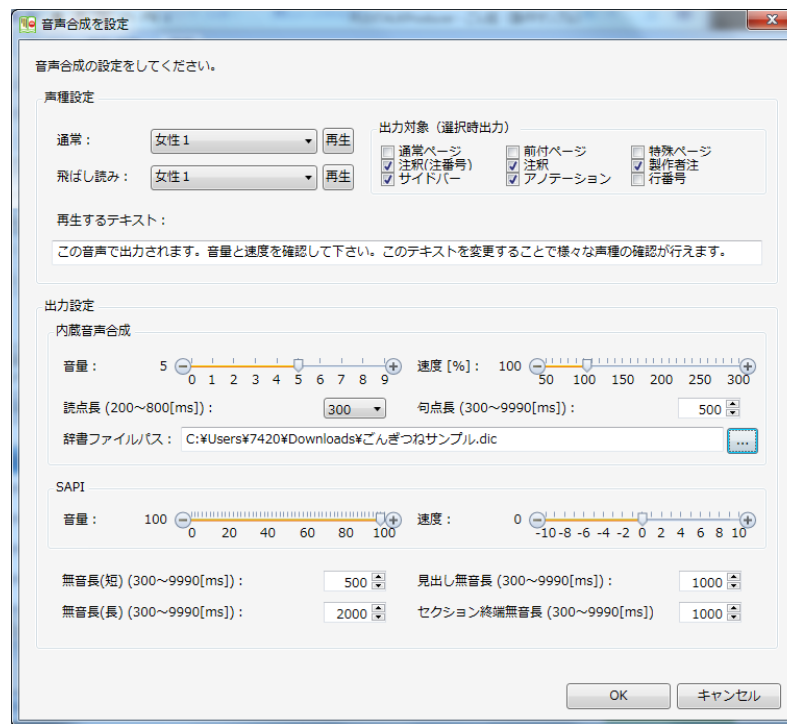
「カーソル位置」または「選択フレーズの前」を選択

画像や表は「カーソル位置」を選択していてもカーソル位置には挿入できず、選択しているフレーズの前に挿入されます。カーソル位置への挿入はPLEXTALK ProducerのVer.1.4.0.0で追加された機能です。以前のバージョンをご利用の方はバージョンアップ後にいずれかの方法を選択してください。

- **音声合成の設定** 声の種類や速度、音声の間（ま）などを設定することができます



設定タブの「音声合成」を選択



① 女性1（インストール直後はこれが選択されています）、② 女性2、③ 男性1、④ 男性2、
またパソコンに音声合成が設定されている場合は追加表示されます。（このパソコンの音声合成を利用する機能をSAPIと言います）

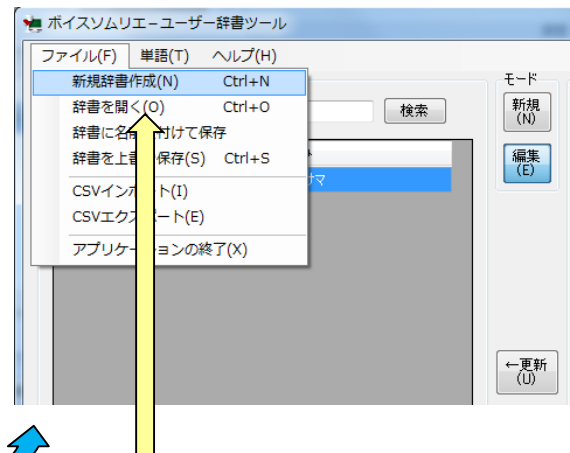
SAPIは日本語/英語を両方持つ教材などの読み上げ時に利用すると便利です。→ 多言語教材製作は [63ページ](#) へ

読み辞書とは？

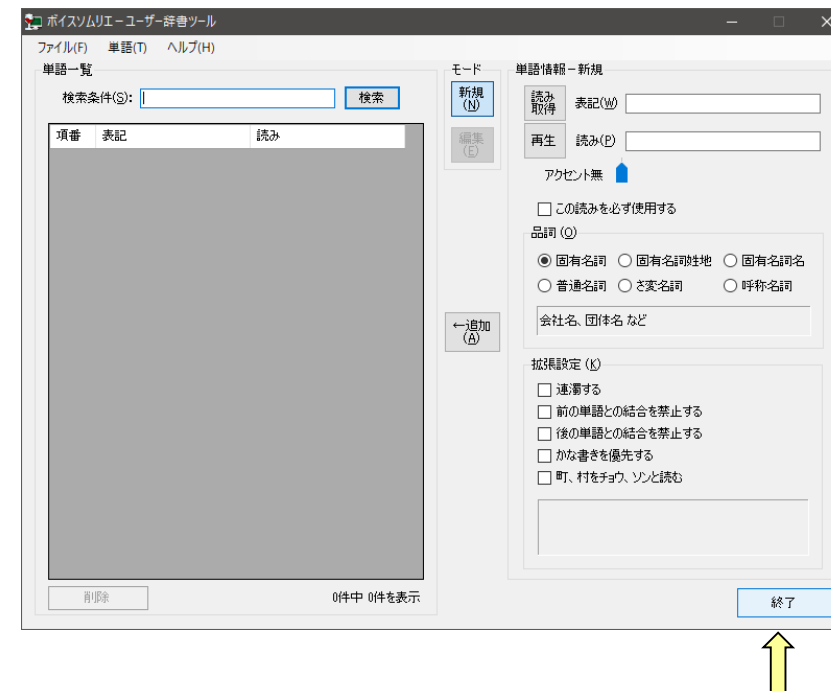
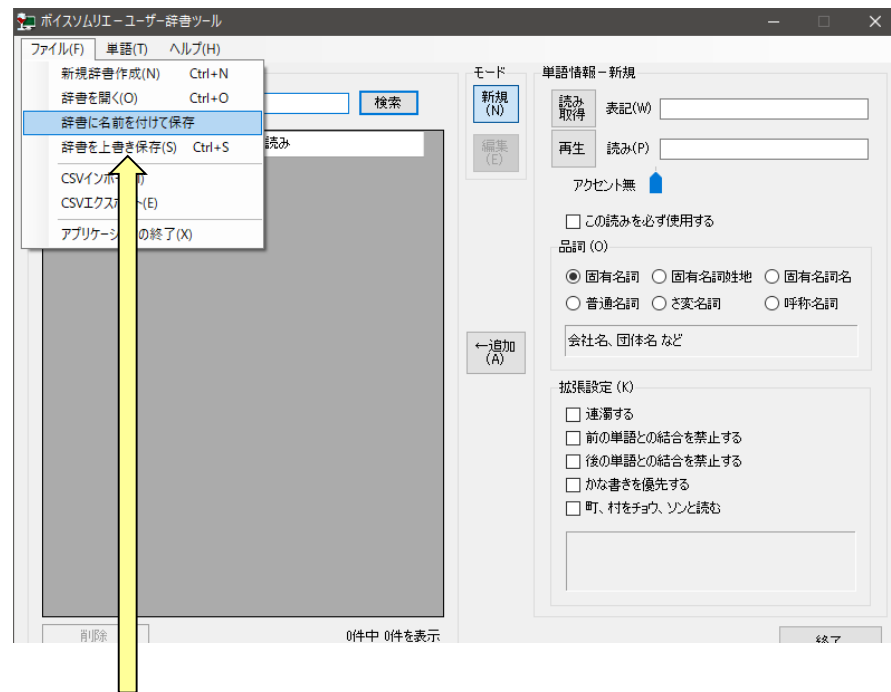
読み辞書とは単語の「読み」を一覧に登録することで、文章内に頻繁に出てくる読み誤りを自動的に訂正できる機能です。音声合成（コンピュータによる合成音）は、漢字の音読み/訓読みや固有名詞など日本語特有の「読み」に対する誤りが発生してしまいます。読み辞書には、読み誤りやすい単語や頻繁に出てくる単語を事前登録すると便利です。



再生・録音タブの
「読み辞書」を選択



ファイルから「新規辞書作成」を選択して
新規辞書を作成

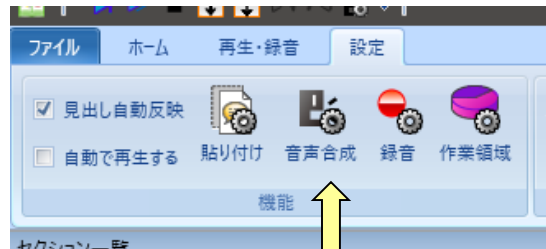


- ① ファイル「辞書に名前を付けて保存」
- ② 任意の場所に保存

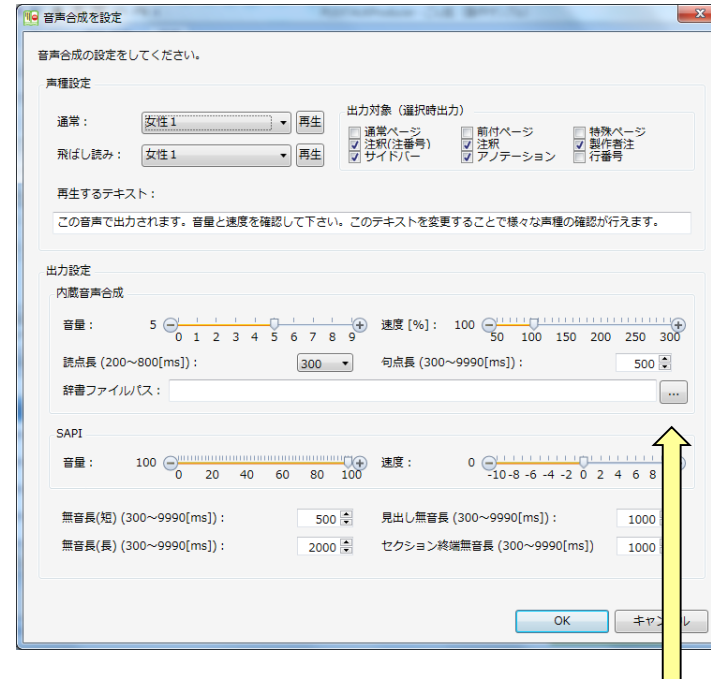
- ③ 「終了」で辞書ツールを閉じる

注：1つ以上の単語を登録しないと辞書の保存はできません。単語の登録は[56ページ](#)をご覧ください。

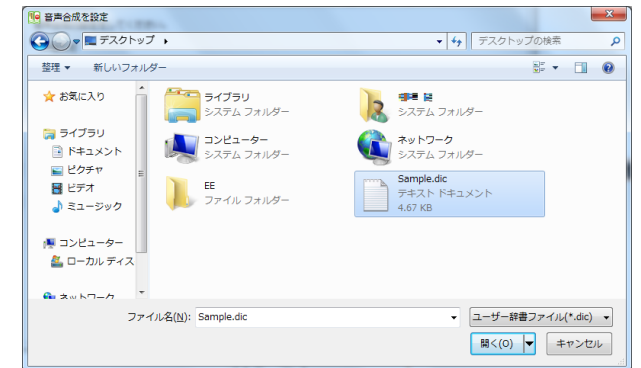
● 辞書をPLEXTALKProducerに結び付けましょう(初回のみ)



設定タブの「音声合成」を選択



辞書ファイルパスの「…」を選択



保存した「.dic」を選択して開きます

※ このガイドではデスクトップから選択していますが、辞書ファイルが移動されると使用できなくなるため、予め管理できるフォルダやインストール先フォルダに辞書ファイルを保存し、そのファイルを選択するようにしてください

データの取り込み

簡単取り込みオプションでできること

取り込む元ファイル ↓		簡単取り込みオプション		PLEXTALKProducer単体	
		レイアウトツール	文字化ツール	テキスト	イラスト画像
テキストファイル		-	-	○ 一括取り込み or コピー＆ペースト	-
Word		-	-	△ コピー＆ペースト (Microsoft Wordなど 起動が必要)	△ コピー＆ペースト (Microsoft Wordなど 起動が必要)
PDF (テキスト有)		○ テキスト/画像を 同時取り込み (Producerのみで可能)	-	△ コピー＆ペースト (Adobe Readerなど 起動が必要)	△ コピー＆ペースト (Adobe Readerなど 起動が必要)
PDF (テキスト無)	スキャンした プリント/テストなど	○ テキスト/画像を 同時取り込み (文字化ツールが自動で動作、 Producerのみで可能)	-	×	△ コピー＆ペースト (Adobe Readerなど 起動が必要)
画像 (jpg、png)	カメラで撮影した プリント/テストなど	○ テキスト/画像を 同時取り込み (文字化ツールが自動で動作、 Producerのみで可能)	○ 画像から 文字情報を抽出 (レイアウトツール起動 なしでも可能)	-	△ コピー＆ペースト (Windowsペイント など起動が必要)

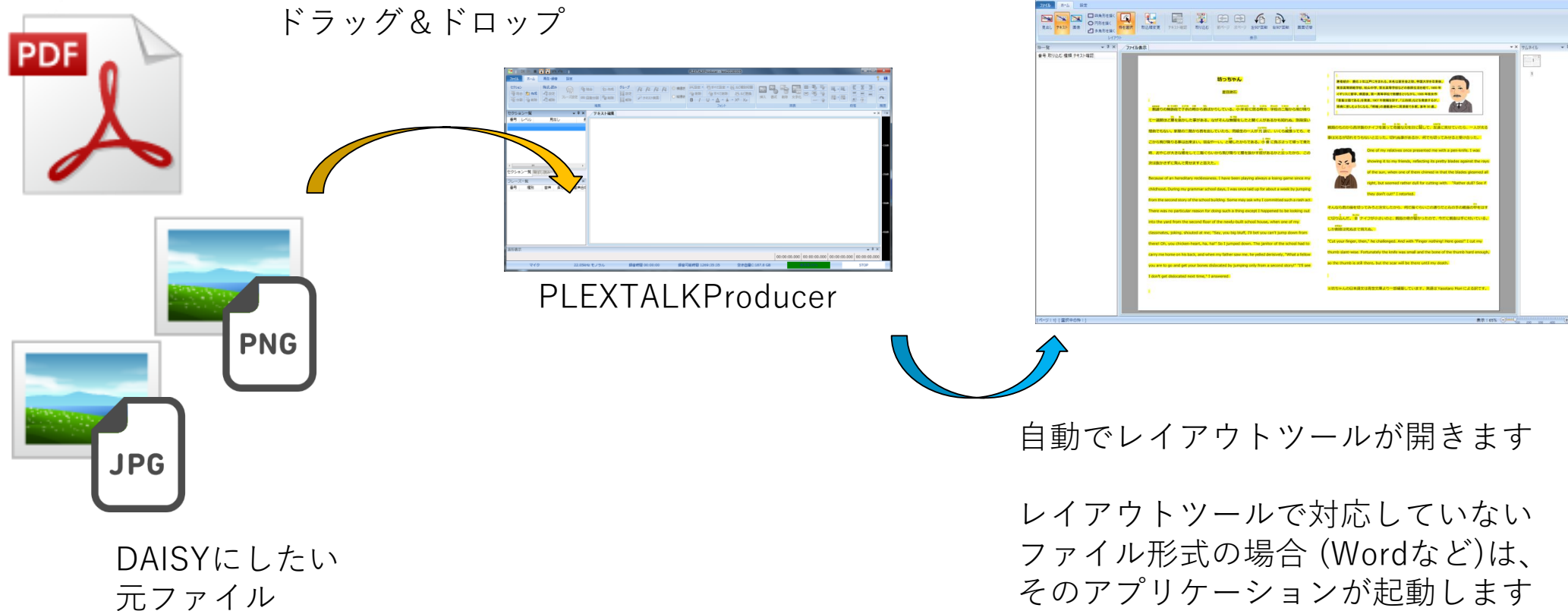
※ 簡単取り込みオプション付では、取り込みたいファイルをドラッグ＆ドロップでレイアウトツールが自動で起動します。
(Microsoft Wordなどレイアウトツールが対応していない場合はそのアプリケーションが起動)

※ 上記表では、Microsoft WordやAdobe ReaderがインストールされたPCでの動作内容となります。これらがインストールされていない場合は関連するアプリケーションが必要となります。

データの取り込み

レイアウトツールから取り込みしましょう ①

- 元ファイルをProducerにドラッグアンドドロップしましょう



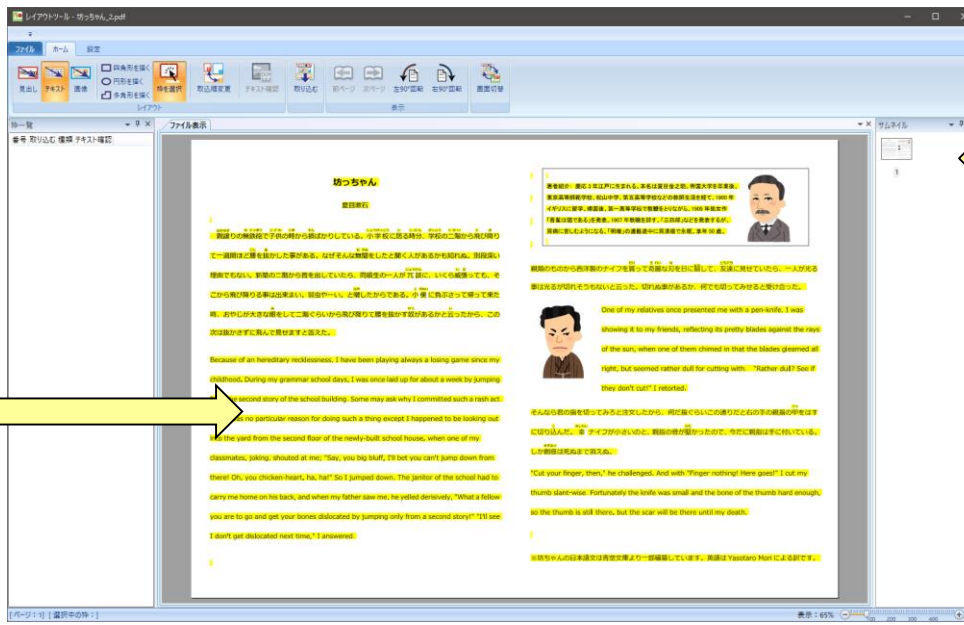
簡単取込みオプションなしの場合は27ページへ

● 画面構成を確認しましょう（レイアウトツール画面）

① リボン形式
のメニュー

② 枠一覧

③ ファイル
表示



④ サムネイル表示

⑤ 表示サイズ

- ① 上部のタブを選択すると、それに関連した項目を選択できるようになります
- ② 描いた枠を一覧表示します
- ③ 取り込むファイルの内容を表示します。取り込みたい枠の種類と形状を設定してからProducerに取り込みます。テキスト情報があるpdfの場合は、テキスト部分が黄色くハイライトされます。(ハイライトを消す場合は次ページ)
- ④ 取り込むファイルのサムネイル(縮小見本)を表示します
- ⑤ ファイル表示画面の表示サイズを変更します

● ページ表示について

設定タブの「表示」で調整します



① 見開き表示

連続するページを見開きとして表示します

② 先頭ページ別表示

冊子をDAISYで作る時などに使います。見開き表示と合わせてチェックした場合、1ページ目が独立して表示され、2-3ページが一度に表示できるようになります。

③ 右から左

縦書きなどの右ページから左ページに進むように表示します

④ テキストをハイライト

テキスト情報を持ったPDFの場合にテキスト部分をハイライトします。チェックを外すとハイライトが消えます。テキスト情報の有無を確かめる場合に便利に使えます

● 枠の種類と形状について

枠の種類

どのような形式で取り込むかを選択します



見出し：見出しとして取り込みます

テキスト：テキスト（文字情報）として取り込みます。
テキスト枠で指定した箇所にテキストがない場合は、自動的に文字化ツールでテキストに変換して取り込みます

画像：画像として取り込みます

枠の形状

枠の形を選択します



四角形：四角形の枠

円形：円形（楕円含む）の枠

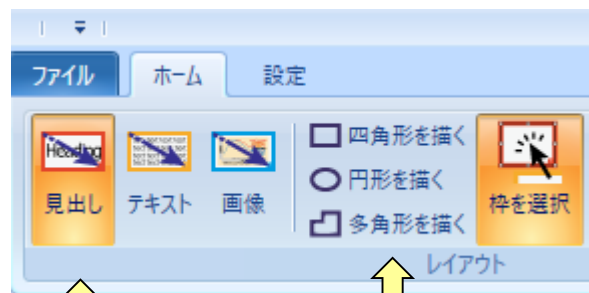
多角形：回り込みありの場合などで利用します。
頂点にしたいポイントをクリックで選び、最後にダブルクリックして枠を閉じます

データの取り込み

レイアウトツールから取り込みしましょう ④

● 見出しを選択しましょう

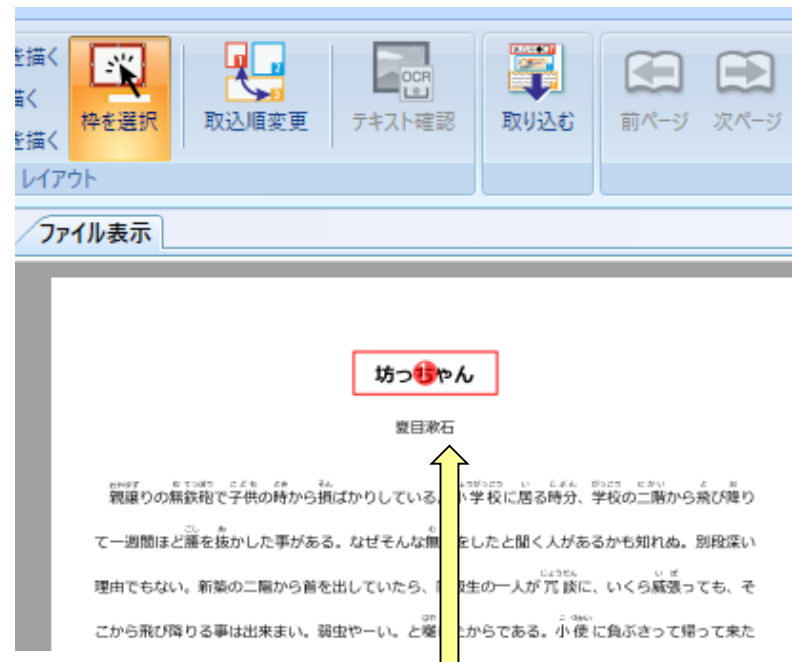
「見出し」として取り込む部分を選択します
(既に見出しがある場合は、この操作を飛ばします)



① 見出しを選択

② 円形や多角形を囲む場合は
囲む枠の形状を選択

※ 四角形の場合は選択不要



③ 見出しにしたい箇所をドラッグ(左クリックで囲む)して選択します

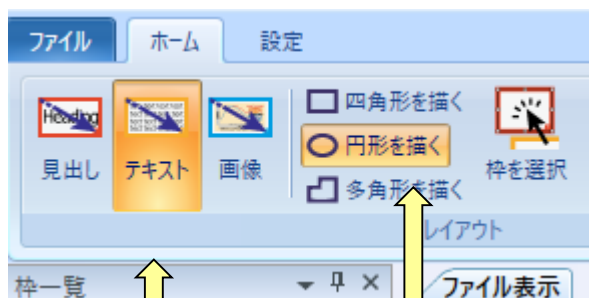
→ 赤い枠で囲まれます(ここでは「坊っちゃん」が見出しとなります)

※ボタンは自動的に「枠を選択」に戻りますが、続けて見出しを描く
場合はそのままドラッグして描けます

データの取り込み

レイアウトツールから取り込みしましょう ⑤

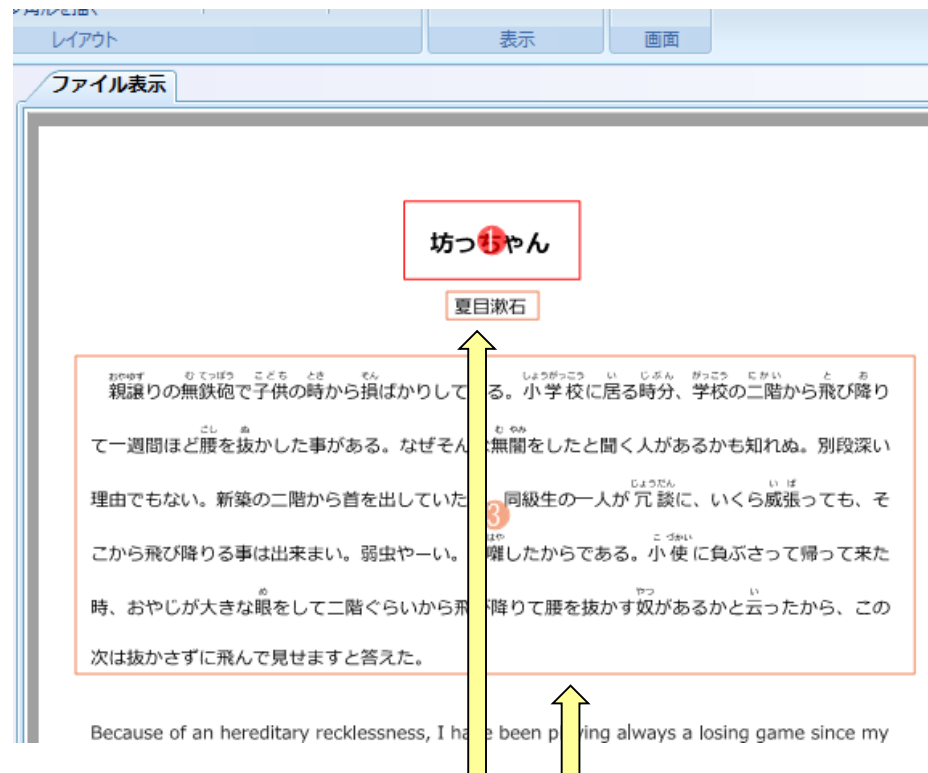
- テキストを選択しましょう 「テキスト」として取り込む部分を選択します



① テキストを選択

② 円形や多角形を囲む場合は
囲む枠の形状を選択

※ 四角形の場合は選択不要



③ テキストとして取り込む部分をドラッグして選択します

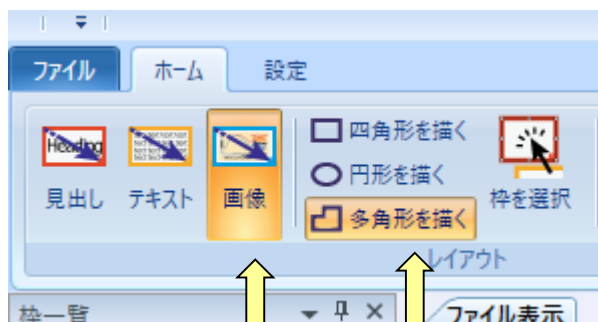
→ 橙色の枠で囲まれます(ここでは「夏目漱石」と本文を囲んでいます)

※ボタンは自動的に「枠を選択」に戻りますが、続けて枠を描く
場合はそのままドラッグして描けます

データの取り込み

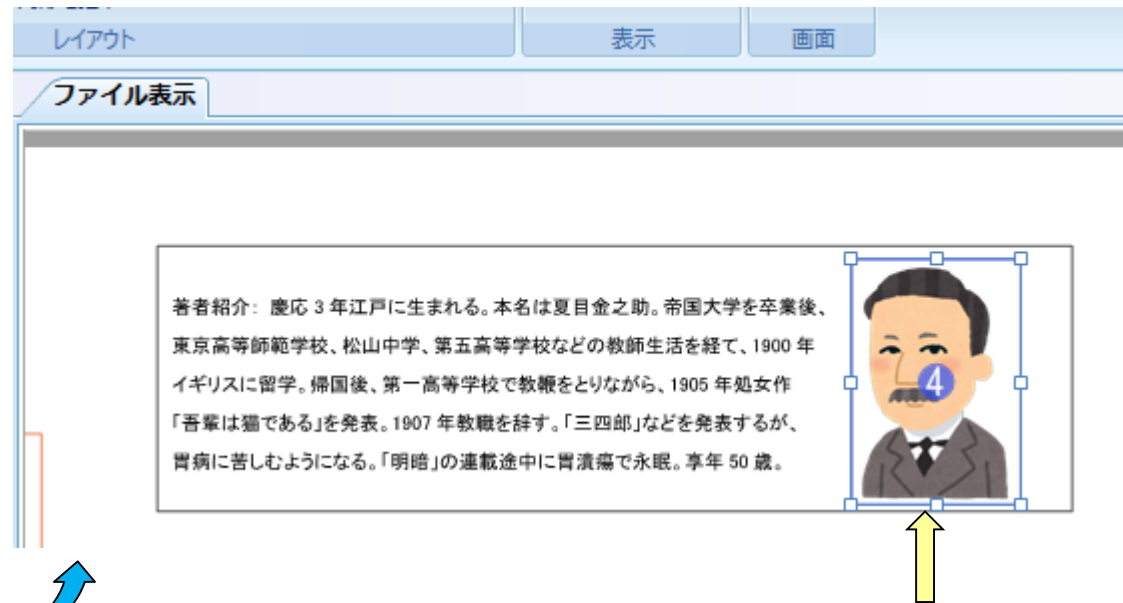
レイアウトツールから取り込みしましょう ⑥

- 画像を選択しましょう 「画像」として取り込む部分を選択します



① 画像を選択

② 円形や多角形を囲む場合は
囲む枠の形状を選択
※ 四角形の場合は選択不要



③ 画像として取り込む部分をドラッグして選択します

→ 青い枠で囲まれます。(ここでは「夏目漱石」のイラストを囲んでいます)

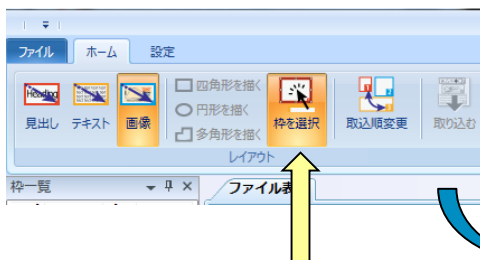
※ボタンは自動的に「枠を選択」に戻りますが、続けて枠を描く場合はそのままドラッグして描けます

データの取り込み

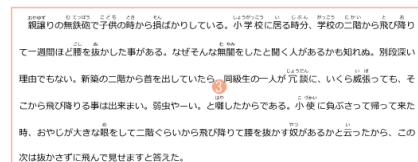
レイアウトツールから取り込みしましょう ⑦

- 枠の編集や順番入れ替え 枠の形状変更や削除などの編集ができます

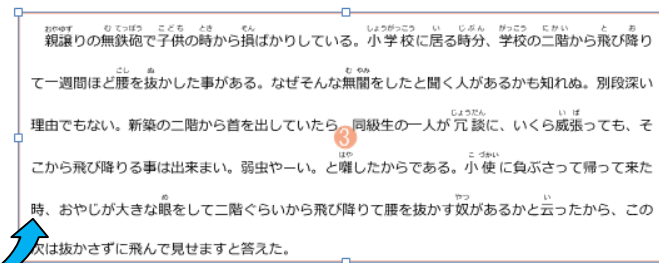
枠の位置やサイズを変更できます。



① 「枠を選択」を選択

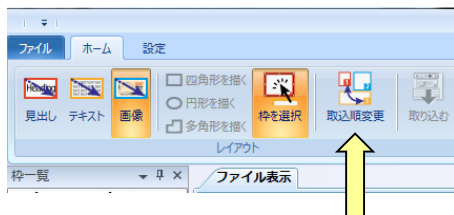


② 編集したい枠を選択
(色付きの枠から頂点が小さな
□の枠になります)

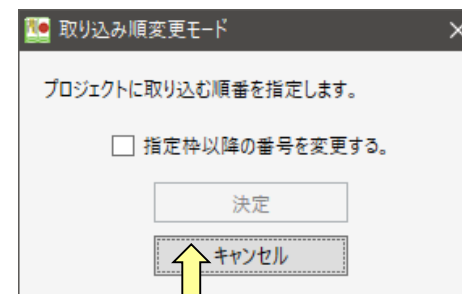


③ 枠の位置やサイズ変更ができます

取り込む順番を変更できます。



① 「取り込み順変更」を選択



② ファイル表示画面で取り込みたい順番に枠をクリックし、最後に「決定」を選択します

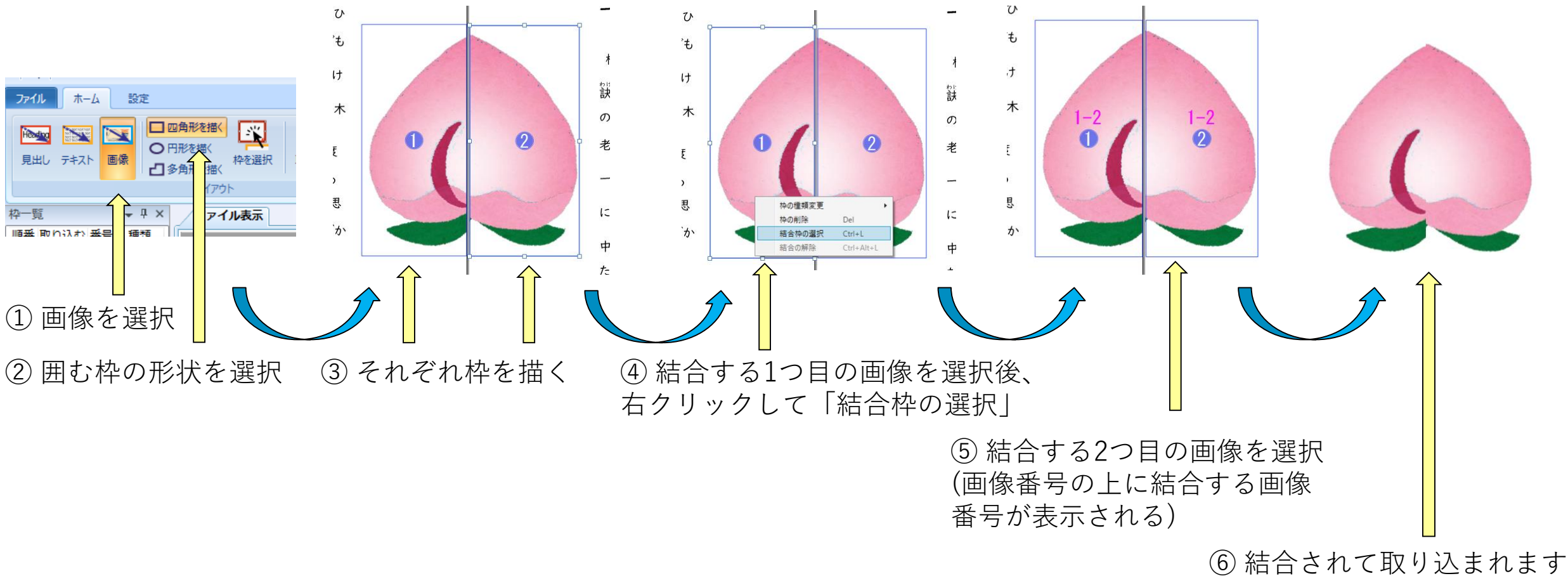
※ 「枠一覧」で順番を入れ替えたい枠をドラッグしても順番を変更できます
(一つずつ入れ替えたい場合に便利です)

データの取り込み

レイアウトツールから取り込みしましょう ⑧

● 画像を結合しましょう

ページを跨いだ画像などを結合することができます



データの取り込み

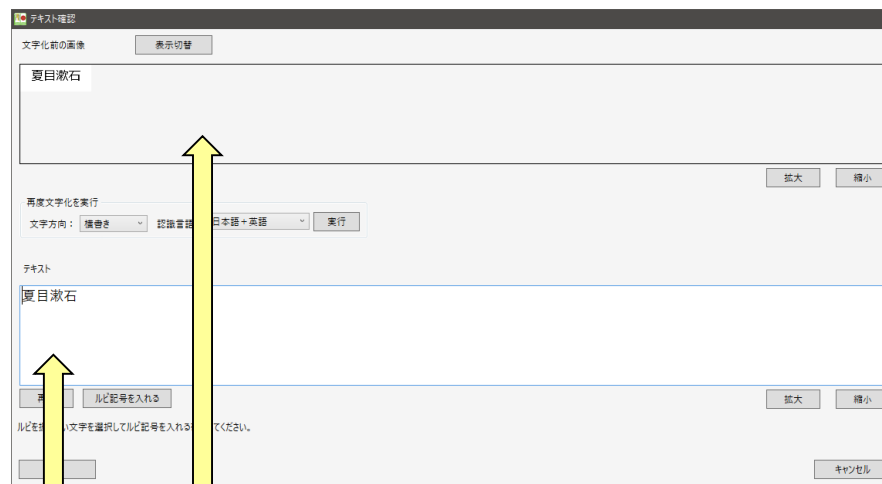
レイアウトツールから取り込みしましょう ⑨

- 画像からの文字化① 画像などテキスト情報を持たない「見出し」や「テキスト」枠から文字化ツールでテキスト情報に変換します

「取り込み」時に文字化することもできますが、事前に文字化したい場合は「テキスト確認」で確認できます。
具体的な確認・修正方法は次ページを参照



文字化したい枠を選択後、
テキスト確認ボタンを選択



文字化する前の画像

文字化した後のテキスト候補

番号	取り込む	種類	テキスト確認
1	<input checked="" type="checkbox"/>	見出し	済
2	<input checked="" type="checkbox"/>	テキスト	済
3	<input checked="" type="checkbox"/>	テキスト	
4	<input checked="" type="checkbox"/>	テキスト	
5	<input checked="" type="checkbox"/>	画像	

確認済の枠は枠一覧で「済」に

データの取り込み

レイアウトツールから取り込みしましょう ⑩

● 画像からの文字化② 文字化したテキスト情報の確認と修正を行います

再度文字化を実行

文字方向: 横書き 認識言語: 日本語+英語 実行

テキスト

夏目漱石

再生 ルビ記号を入れる

← 文字方向や言語が間違えている場合は変更して実行

← テキスト修正が必要な場合、直接テキストを編集・修正してください。
文字化する前のルビ情報が自動で取得できない場合、その情報は破棄されて表示されます

ルビを改めて入力する/修正する場合

① → テキスト

夏目漱石

再生 ルビ記号を入れる



- ① ルビを設定する文字を選択し、「ルビ記号を入れる」を選択。
選択文字の前に「|」（バーティカルライン）が、後に「《》」（2重山カッコ）が入ります
- ② ルビとなる文字を「《》」の間に入力します

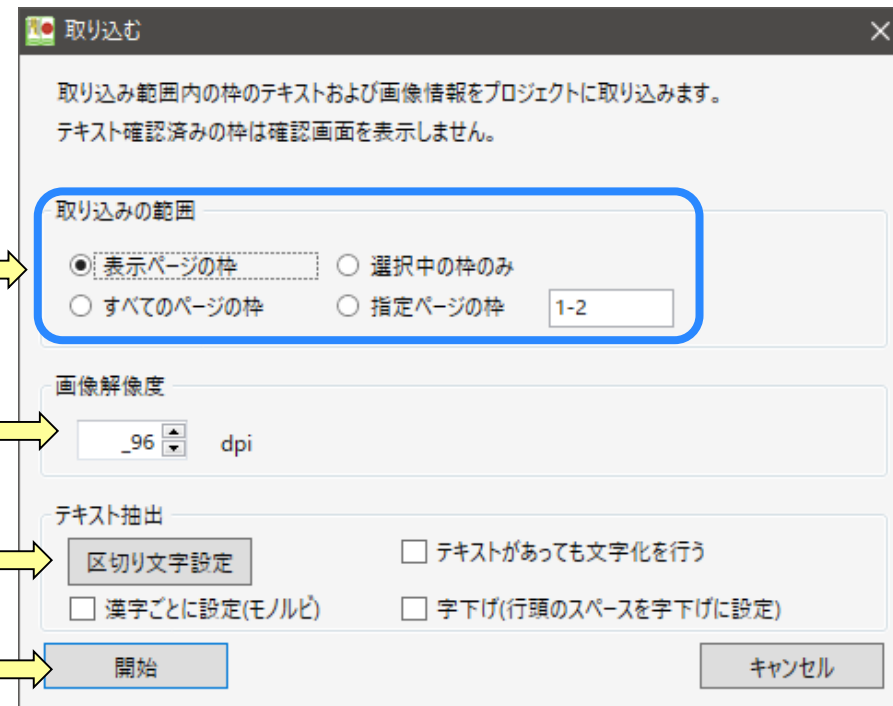
データの取り込み

レイアウトツールから取り込みましょう ⑪

- 取り込む 設定した枠の部分をProducerに取り込みます



① 「取り込む」を選択



- ② 取り込みの範囲を選択
- ③ 画像解像度の選択：画像を取り込む際の解像度を指定します。
解像度が低いと画像が不鮮明になる場合があります、高過ぎると表示上はみ出したり、
ファイルサイズが大きくなります
- ④ 取り込む際にハイライトを区切る文字を設定します。標準では読点、句点、カンマが
指定されています
- ⑤ 取り込む際に「開始」を選択します

- レイアウトツール非対応ファイルから取り込む またはオプションなしで取り込む

クリップボードを利用して取り込む

Windowsクリップボードを利用してテキストや画像を取り込むことができます。例えば、

- ・ Microsoft Word
- ・ 一太郎
- ・ Internet ExplorerなどのWebブラウザ
- ・ Microsoft PowerPoint

など、クリップボードを利用できるソフトからコピー＆ペーストで取り込みます。
表はMicrosoft ExcelやMicrosoft Wordの表を取り込むことができます。

またテキストファイル（txt）はファイルインポート機能で一括取り込みできます。

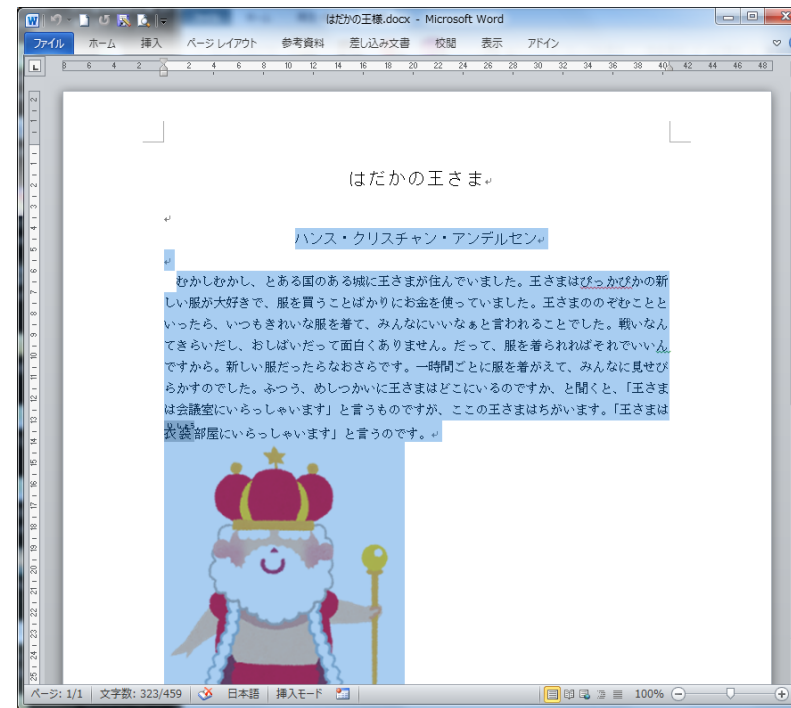
データの取り込み

Wordファイルから取り込みましょう ②

● Wordからテキスト（文字情報）をコピーしましょう ①



Word文書を開きます



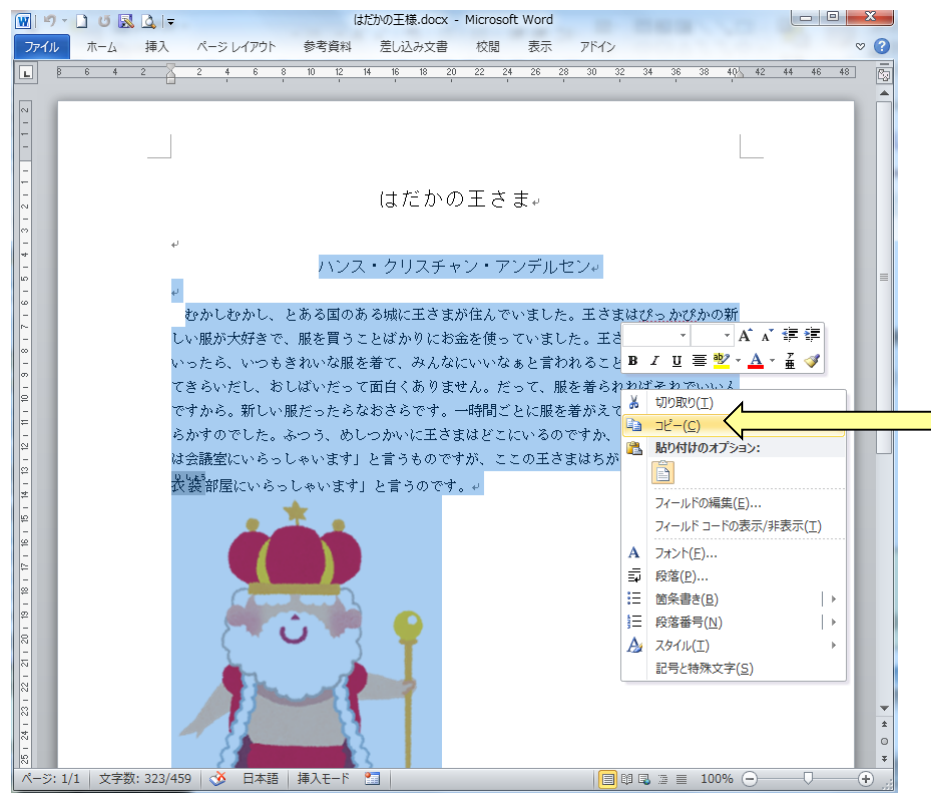
取り込みたい部分をドラッグして選択

（全ての範囲を選択するには
Ctrl + Aキーが便利です）

データの取り込み

Wordファイルから取り込みましょう ③

● Wordからテキスト（文字情報）をコピーしましょう ②



右クリックして「コピー」を選択
(Ctrl + C キーでも行えます)

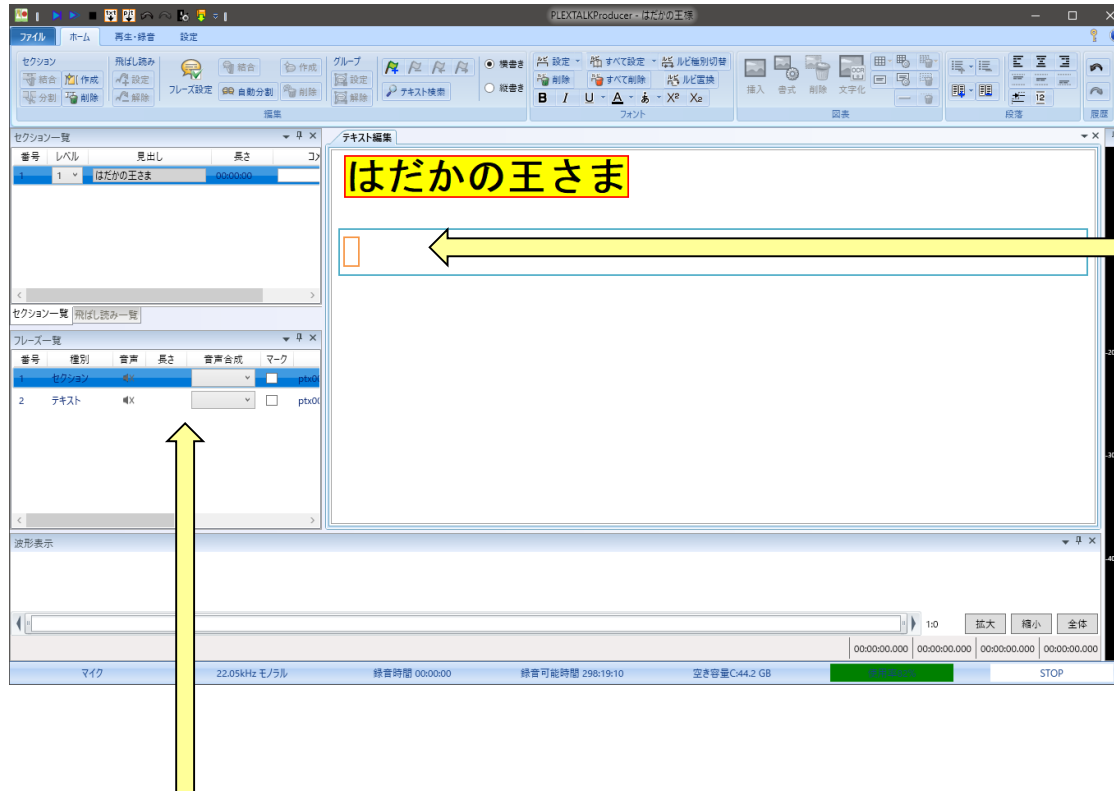
コピーされる内容について

ルビ付のWordや一太郎ではルビの情報もコピーされます。
画像は同時にコピーされませんので、画像は別途取り込みます。 ([32ページへ](#))

データの取り込み

Wordファイルから取り込みましょう ④

● テキストを取り込みましょう ①



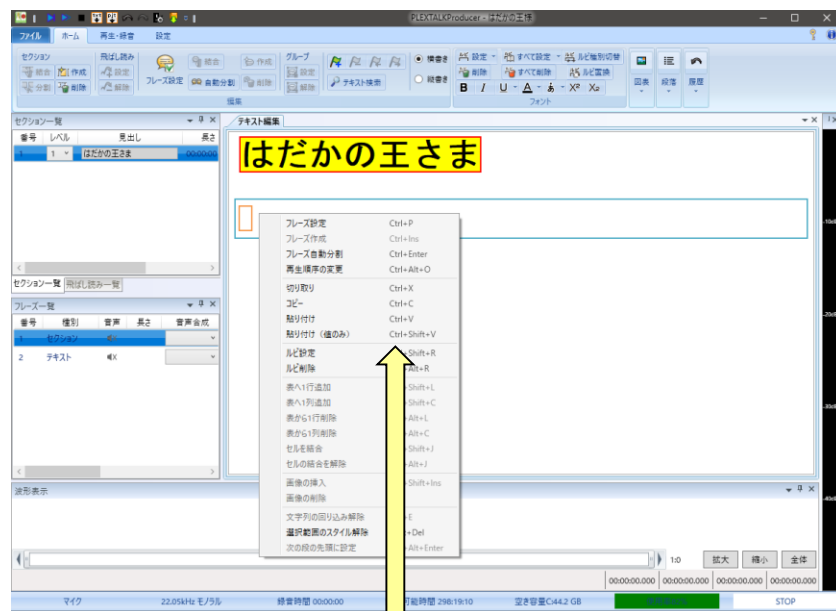
貼り付けしたい箇所を選択

フレーズ一覧で右クリック → フレーズ作成で
新しいフレーズを作ることができます

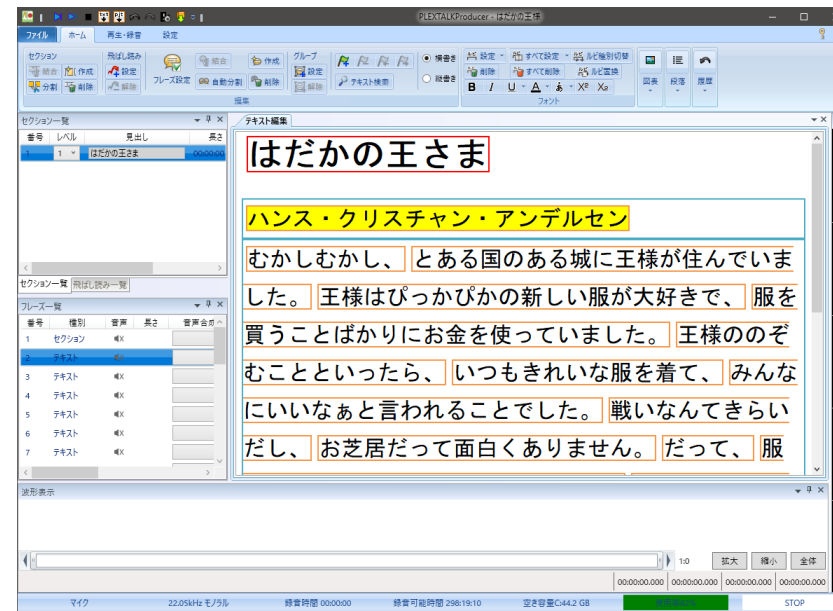
データの取り込み

Wordファイルから取り込みましょう ⑤

● テキストを取り込みましょう ②



右クリックして「貼り付け」を選択
(Ctrl + V キーでも行えます)



テキストが取り込みました

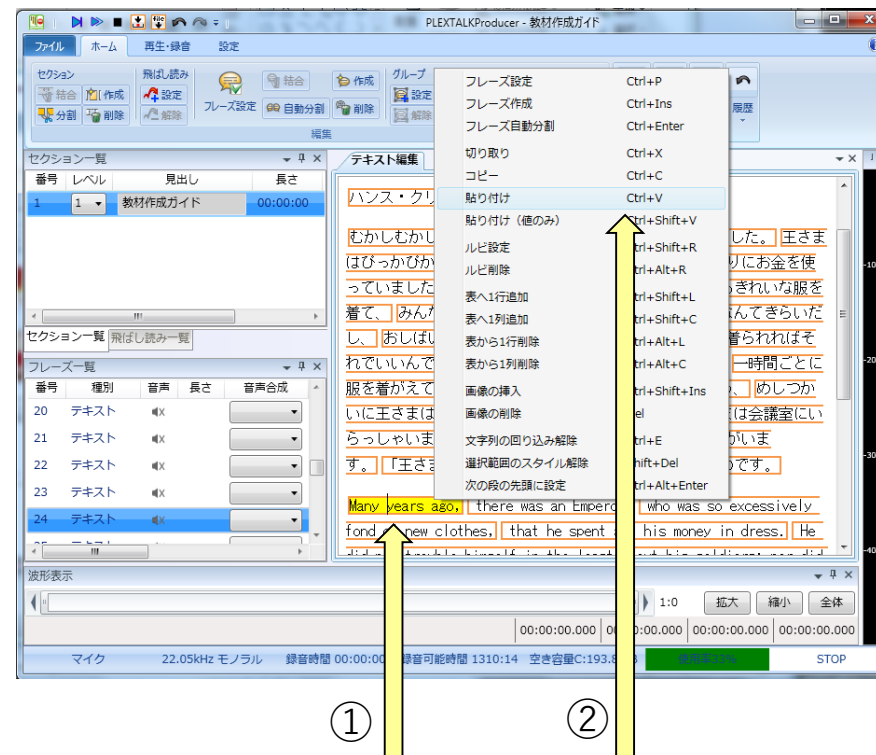
データの取り込み

Wordファイルから取り込みましょう ⑥

● Wordの画像を取り込みましょう ①



画像を選択して、右クリック → コピー

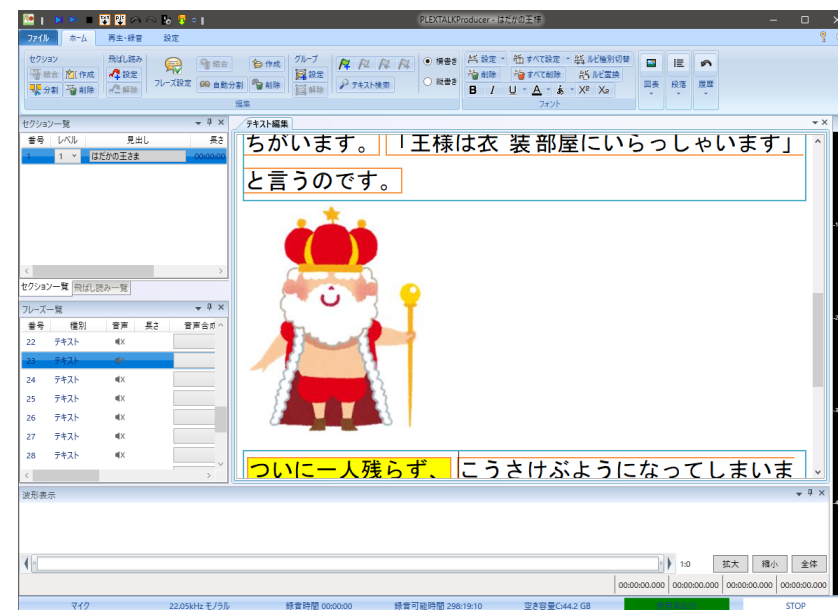
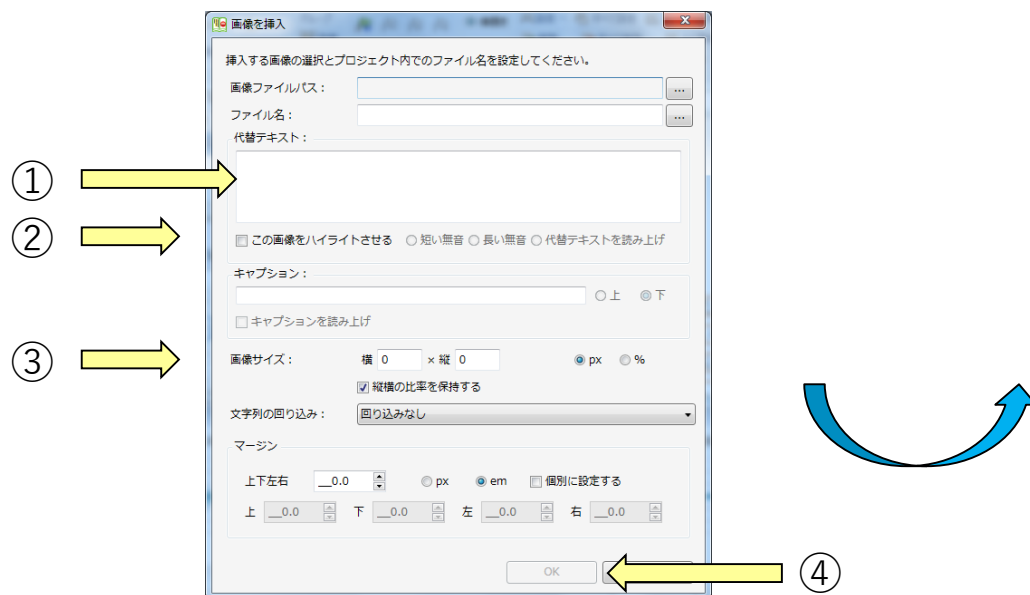


- ① 挿入する一つ後ろのフレーズを選択し、
- ② 右クリック → 貼り付け

データの取り込み

Wordファイルから取り込みましょう ⑦

● 画像を取り込みましょう ②



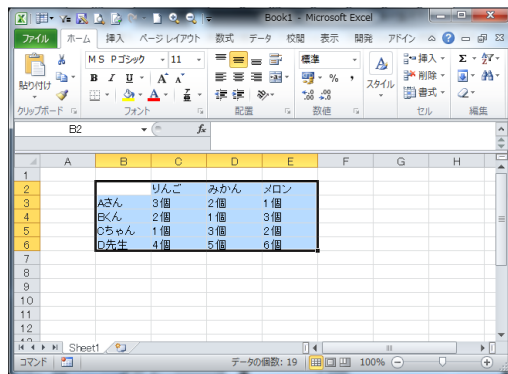
- ① 必要に応じて代替テキスト（画像の説明文）を入力
- ② 「この画像をハイライトさせる」にチェックを入れる
と再生時にハイライトし、
「短い無音」「長い無音」→ 画像再生時に無音となります
「代替テキスト読み上げ」→ ①で入力した文章を読み上げ
- ③ 必要に応じて表示するサイズを変更
- ④ 「OK」を選択すると画像挿入が完了します

画像を取り込みました

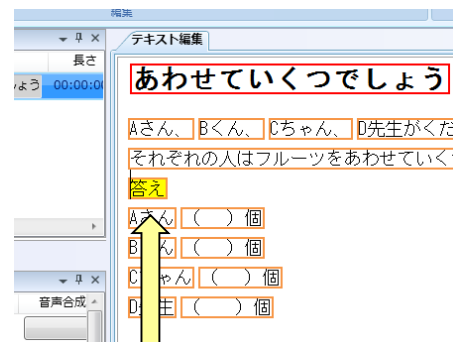
データの取り込み

Excelファイルから表を取り込みましょう

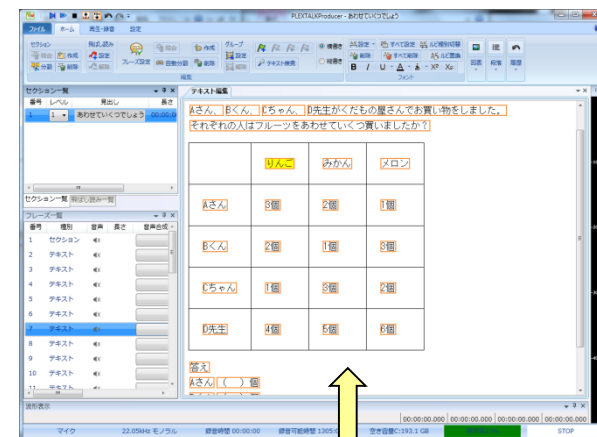
- Excelから表を取り込み



Excelファイルで取り込みたい情報を選択し、右クリックしてから「コピー」を選択



取り込みたい箇所の「1つ後ろ」のフレーズを選択し、右クリックから「貼り付け」を選択

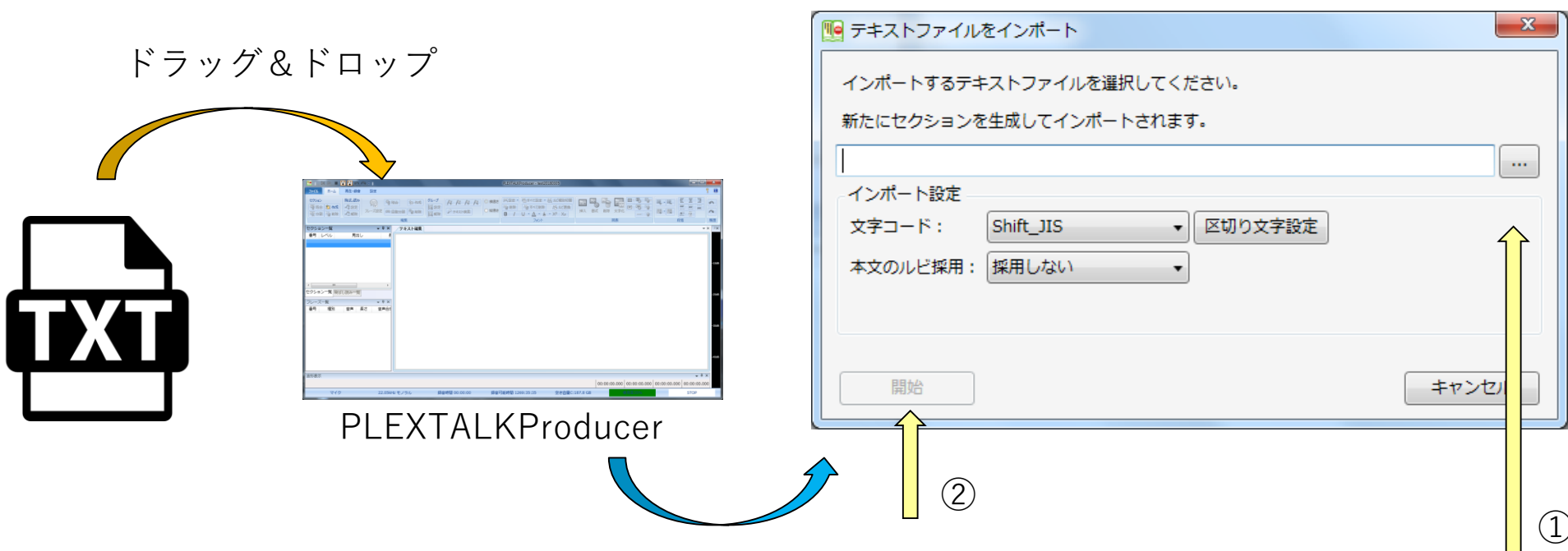


表の取り込みができました

データの取り込み

テキスト(.txt)ファイルから取り込み

- 既存のテキストファイルを一括で取り込みましょう

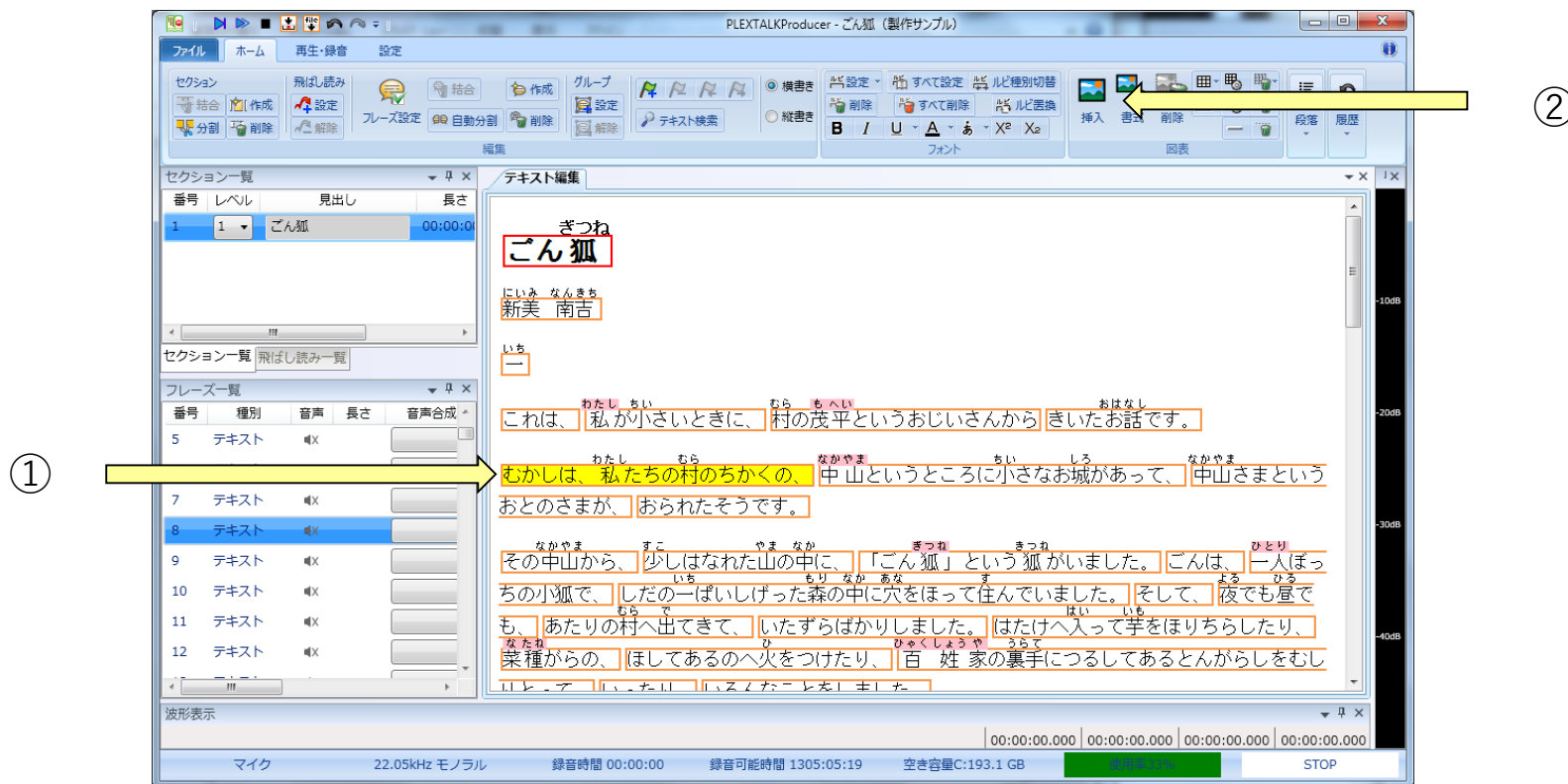


※ 「ファイル」メニューから「テキストインポート」を選択しても一括取り込みできます。
※ 取り込んだテキストが文字化けする場合は「文字コード」に注意してください。

データの取り込み

既存画像の取り込み

- 既存の画像を取り込みましょう



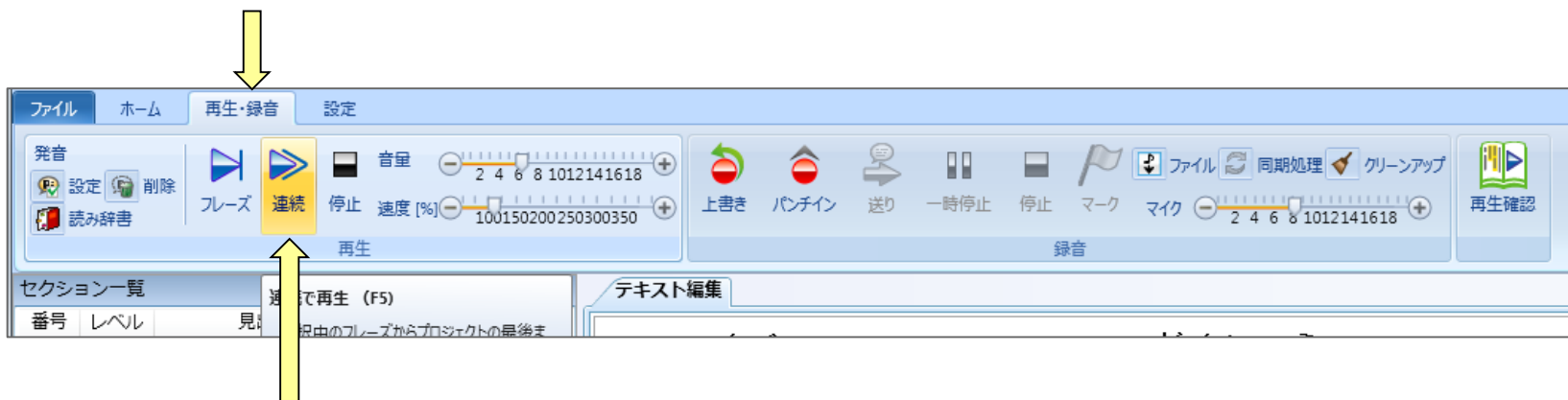
① 画像を挿入したい場所の1つ後ろのフレーズを選択します

② 「ホーム」タブの図表から「画像の挿入」を選択します

音声の再生確認

● 音声の再生確認をしてみましょう

① 再生・録音タブを選択



② 「連続」を選択して音声を確認 (F5キーでも行えます)

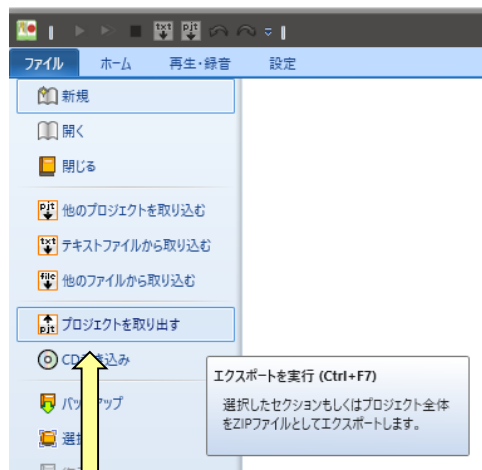
ショートカットキーについて

PLEXTALK Producerでの作業には、パソコンのキーの組み合わせによるショートカットが設定されています。操作に慣れてきたらショートカットキーを覚えて、さらに製作時間の短縮をしてみましょう。

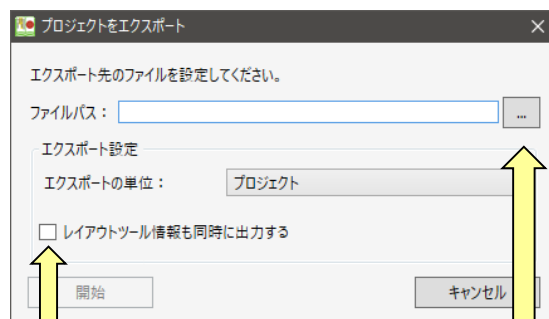
例：	音声の連続再生/停止	F5キー
	発音の設定	Ctrl + Shift + P
	画像の挿入	Ctrl + Shift + Insert

● プロジェクトのエクスポート

他のパソコンで編集をしたり、グループ内で分業で制作したりする場合に、プロジェクトを取り出せます



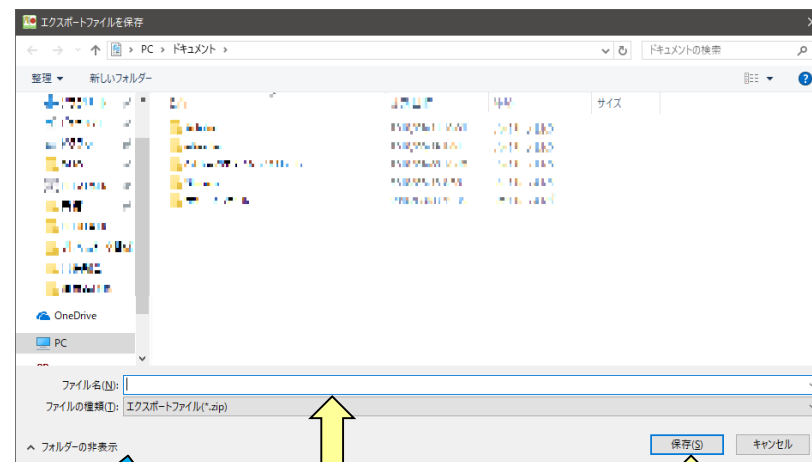
エクスポートを実行 (Ctrl+F7)
選択したセクションもしくはプロジェクト全体
をZIPファイルとしてエクスポートします。



レイアウトツール情報も出力する
場合はチェック

「ファイル」から
「プロジェクトを取り出す」を
選択します

「…」を選択して出力する
場所を選択します

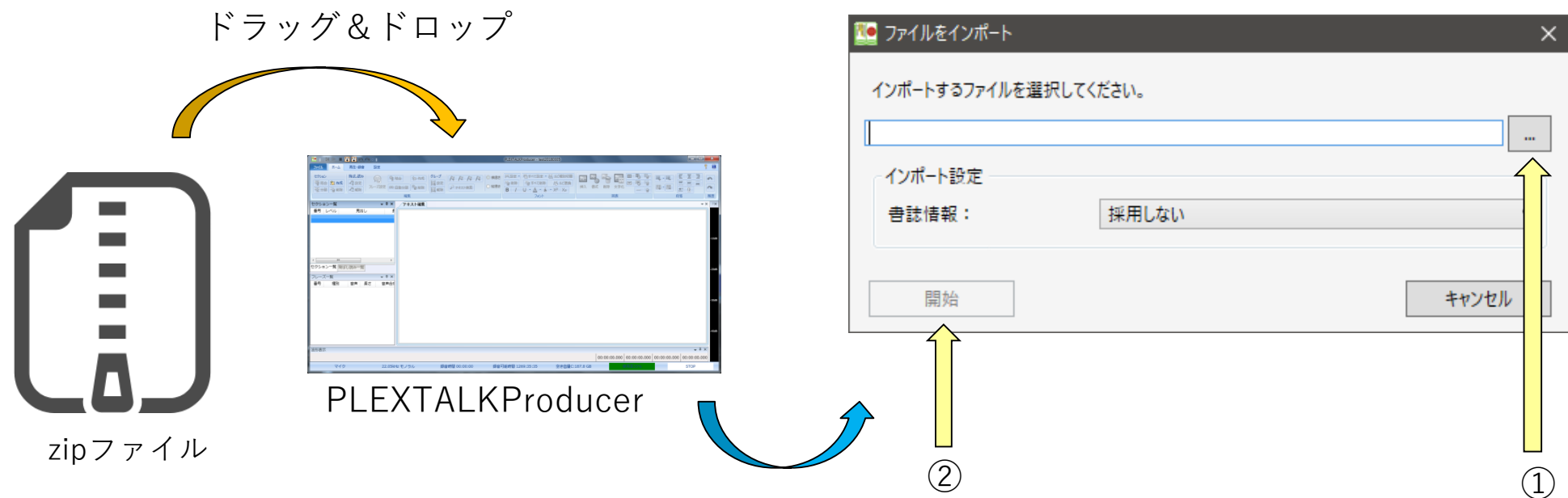


① ファイル名を入力して、
② 「保存」を選択します

→出力したプロジェクトは「zip」形式です

● プロジェクトのインポート

他のパソコンで編集をしたり、グループ内で分業で制作したりする場合に、プロジェクトを取り込みます



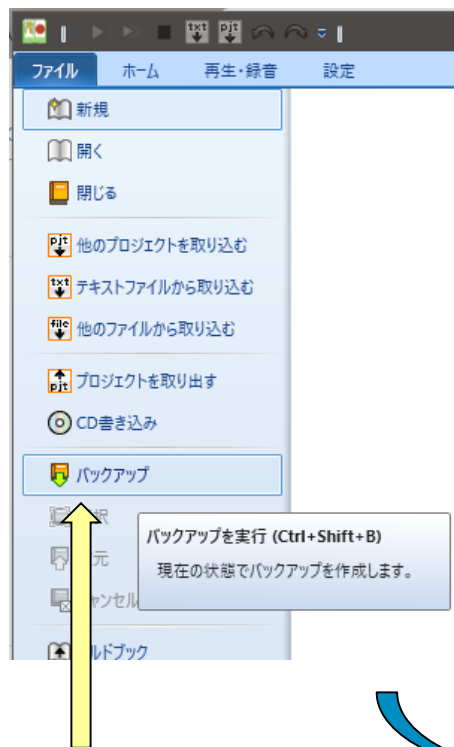
※「ファイル」から「プロジェクトを取り込む」
でもできます

- ① 「…」を選択して取り込むファイルを開きます
- ② 「開始」を選択します

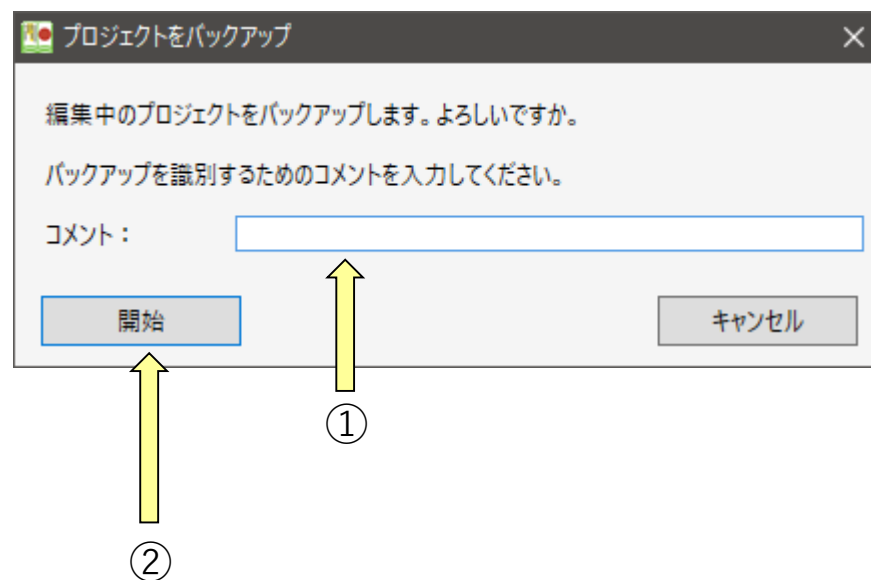
書誌情報を「採用する」と取り込むファイルの書誌
情報がプロジェクトの書誌情報になります

バックアップと復元 ①

● プロジェクトのバックアップ



「ファイル」から
「バックアップ」を選択します



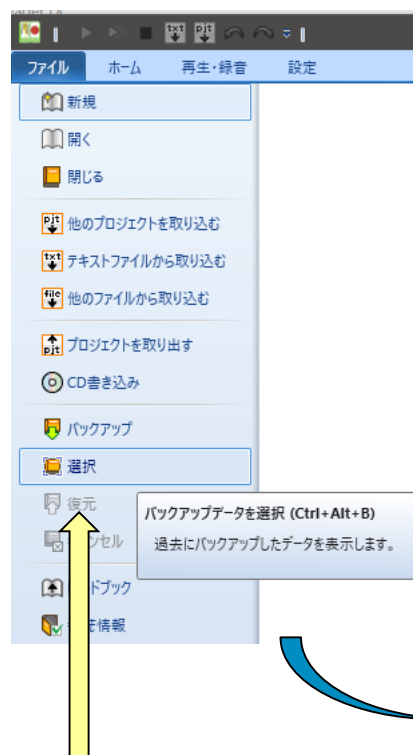
- ① プロジェクトの状況コメントを入力し（任意）、
- ② 開始を選択します

→ テキスト、画像、音声、編集情報などのプロジェクト情報が一括でPC内にコピーされます

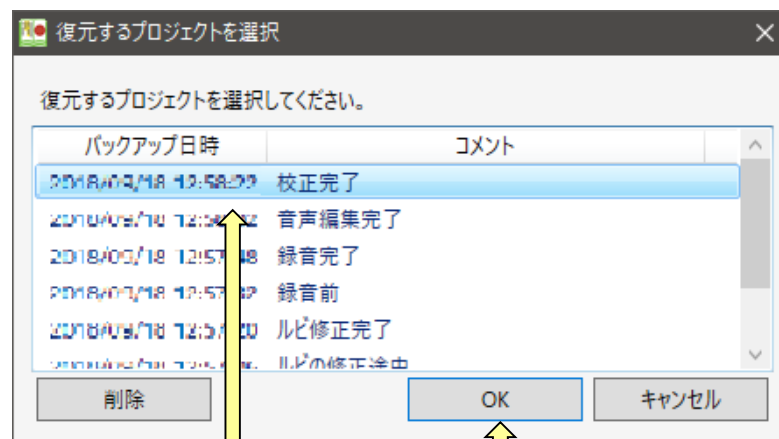
バックアップと復元 ②

● プロジェクトの復元①

プロジェクトが何らかの理由で壊れてしまったり、ある時点まで一度に戻りたい場合にバックアップした箇所まで復元できます



「ファイル」から
「選択」を選択します

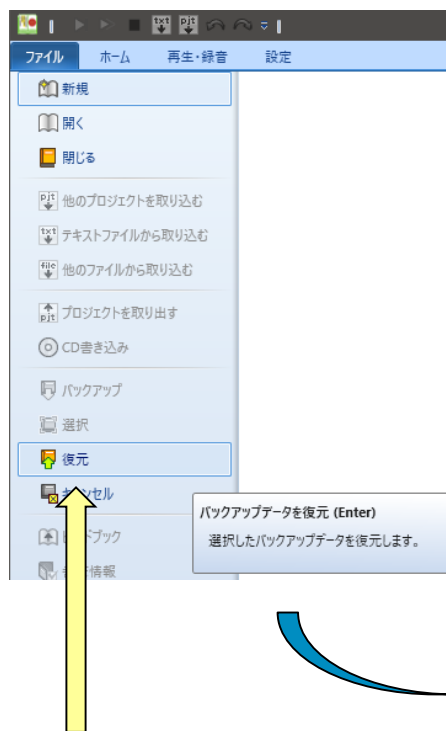


- ① 復元したいバックアップポイントを選択し、
- ② OKを選択します

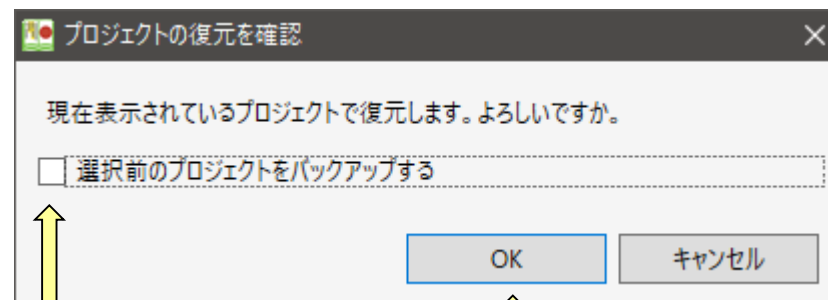
→ この段階では、まだ復元していません。

バックアップと復元 ③

● プロジェクトの復元②



「ファイル」から
「復元」を選択します

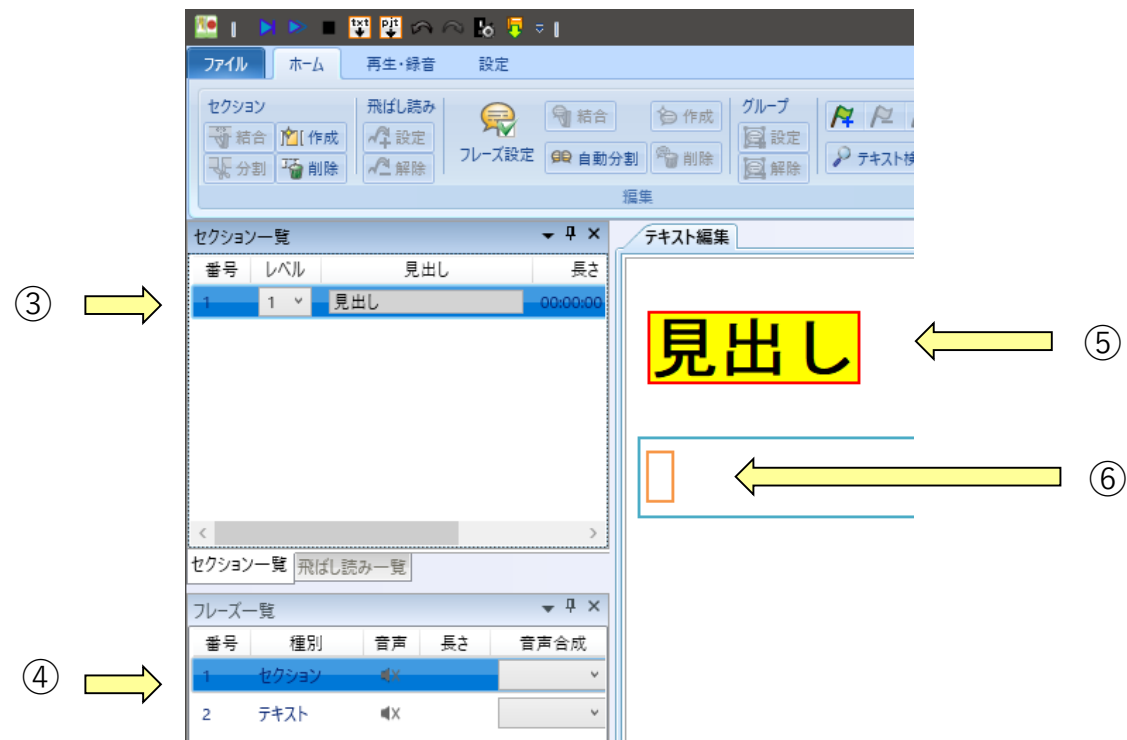
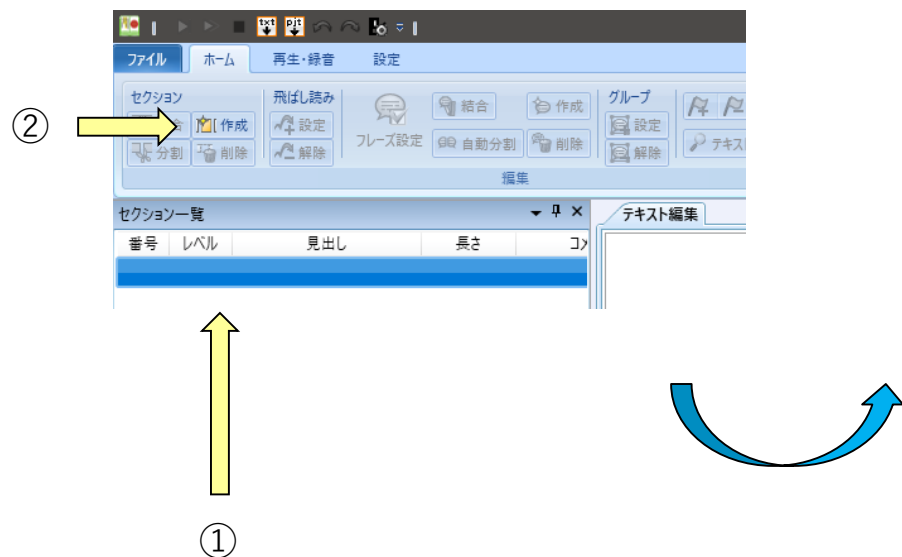


「OK」を選択

復元する前の状況をバックアップ
する場合はチェックします

→バックアップした状況まで復元します

● セクションを新規作成しましょう



① セクション一覧で作成したい箇所を選択

② ホームタブのセクション「作成」を選択

③ セクション一覧に「番号1」のセクションができる

④ フレーズ一覧に「番号1」と「番号2」のフレーズができる

⑤ テキスト編集に“見出し”という名前の「見出しフレーズ」ができる

⑥ テキスト編集に半角スペースの「テキストフレーズ」ができる

● セクションを分割してみましょう

②

見出し

フレーズ 分割後に見出しになるフレーズ

①

③

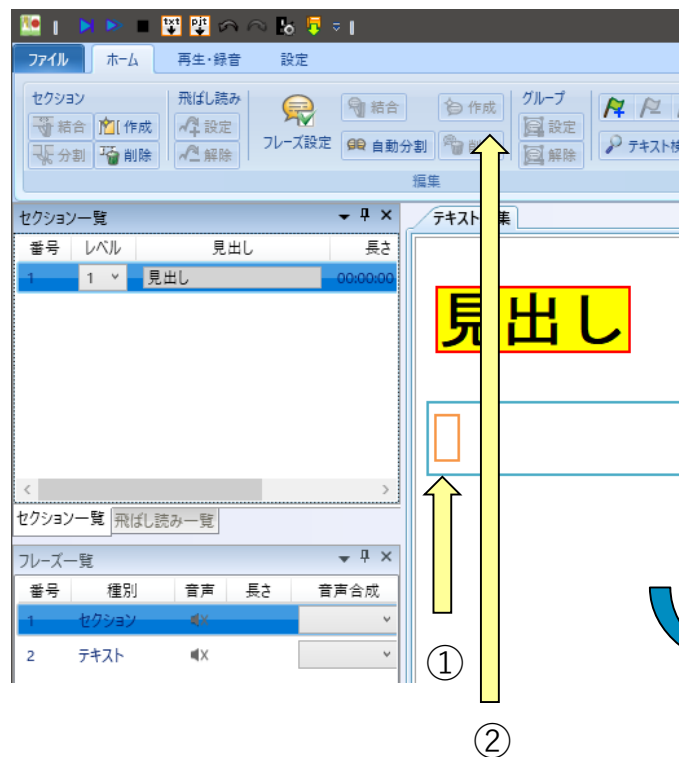
分割後に見出しになるフレーズ

④

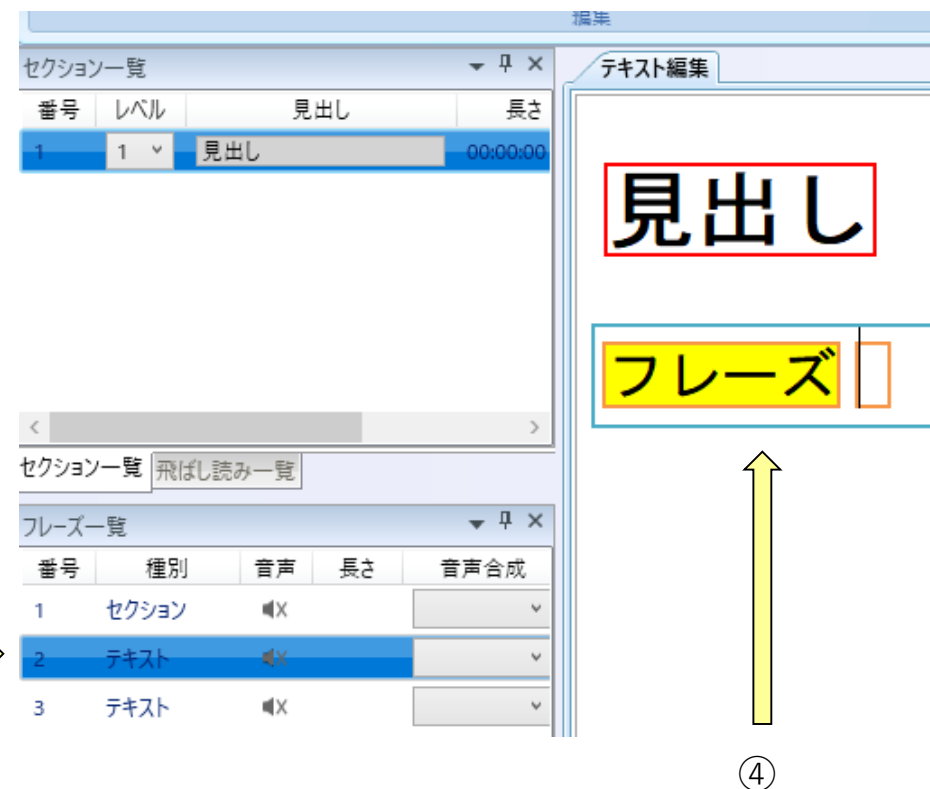
- ① 分割後に見出しにするフレーズを選択
- ② ホームタブのセクション「分割」を選択

- ③ セクション一覧に1つのセクションができる（ここでは番号2）
- ④ テキスト編集に①で選択したフレーズの見出しができる

● フレーズを作ってみましょう 方法①



③



① フレーズを作る“1つ後ろ”のフレーズを選択

② ホームタブの「フレーズ作成」を選択

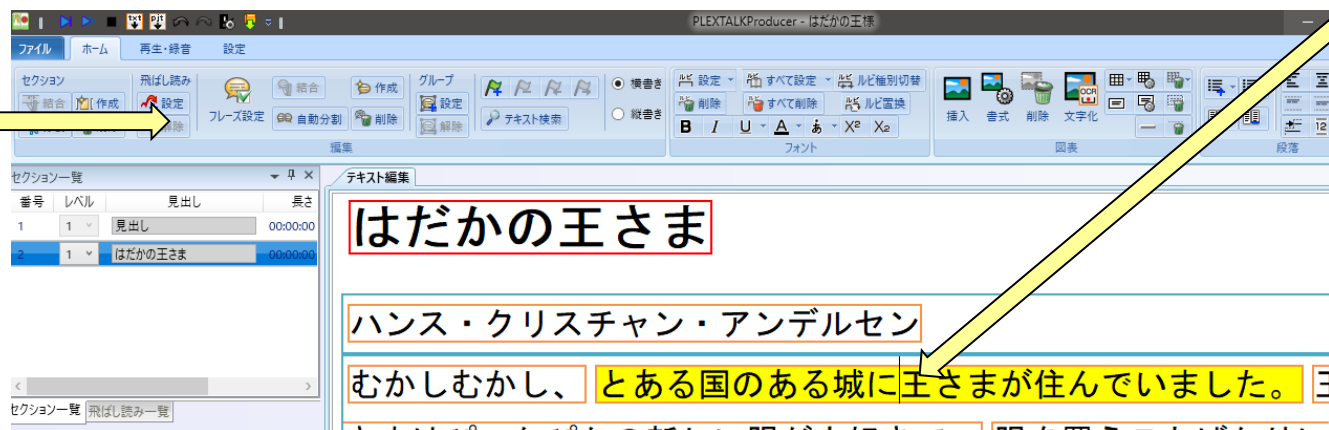
③ フレーズ一覧に「テキストフレーズ」ができる（ここでは番号2）

④ テキスト編集に“フレーズ”とテキストの入った「フレーズ」ができる

● フレーズ（ハイライト）の長さを変えてみましょう ①

1. フレーズの分割

②「フレーズ設定」



① 分けたい箇所にカーソルをあわせる

ハンス・クリスチャン・アンデルセン

むかしむかし、とある国のある城に王さまが住んでいました。王さ
ことばかりにお金を使っていました。王さまののぞむことといたら、

フレーズが2つに分かれます

- フレーズを作ってみましょう 方法② フレーズ分割を使ってフレーズを作ってみましょう

③ フレーズ設定を選択

① フレーズを作りたい箇所を選択

② スペースを入力してカーソルを一文字分戻す

④ スペースがフレーズとして設定される

見出し

見出し

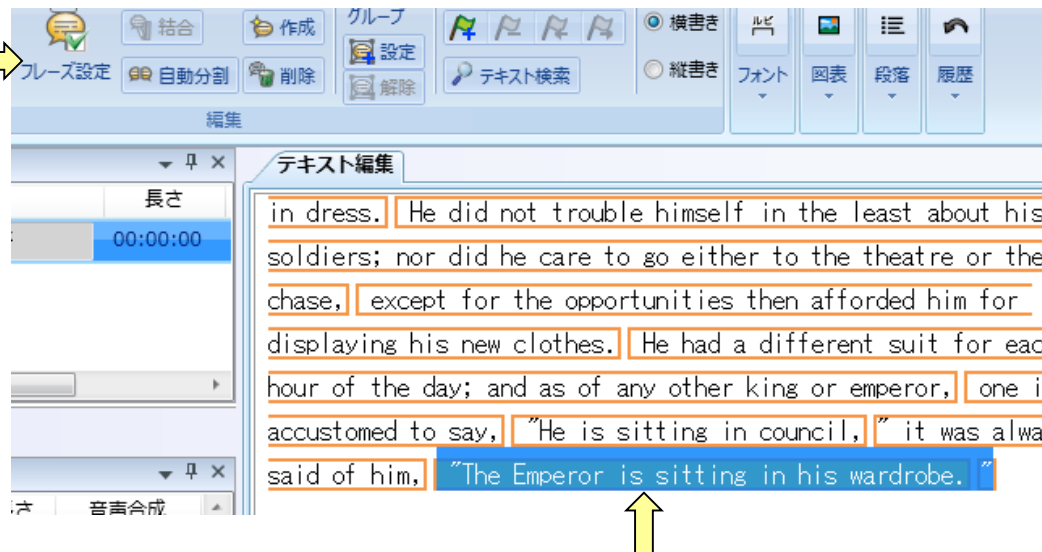
見出し

見出し

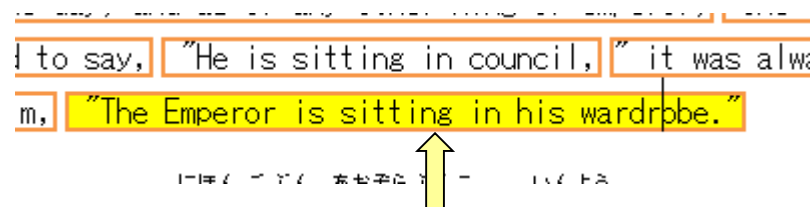
● フレーズの長さを変えてみましょう ②

2. フレーズの結合

② 「フレーズ設定」



① 結合したい箇所をマウスでクリックしながら選択
(ここでは独立してフレーズになっている「」を結合
しています)



フレーズが1つに結合されます



● ページをつけてみましょう

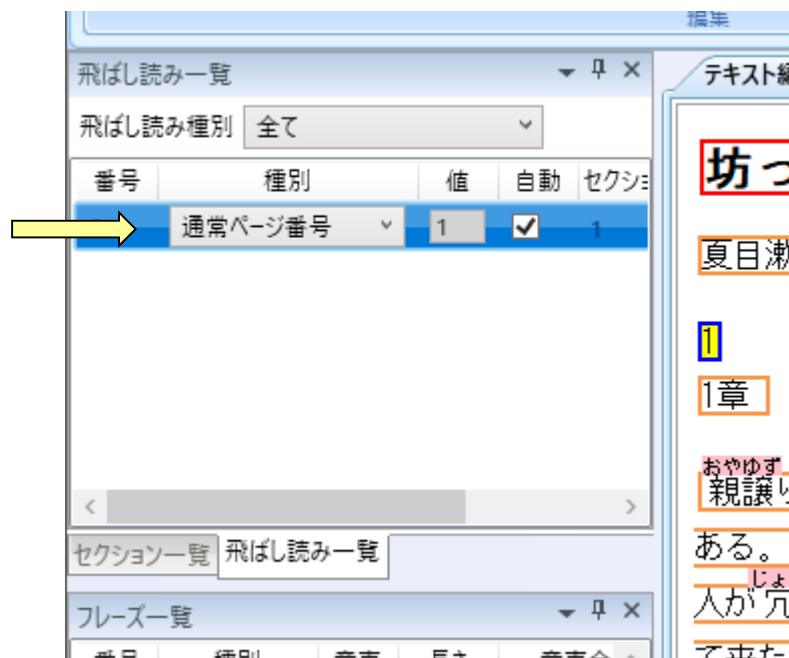
ページ番号のフレーズを作って選択
(ページを区切る1つ前の場所)



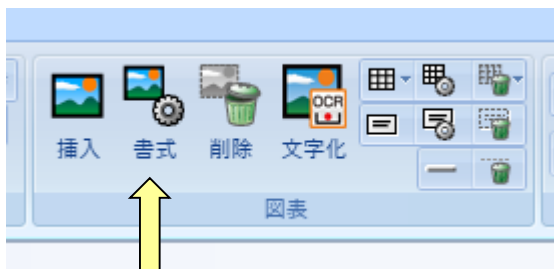
「設定」を選択

飛ばし読みの種類を選択

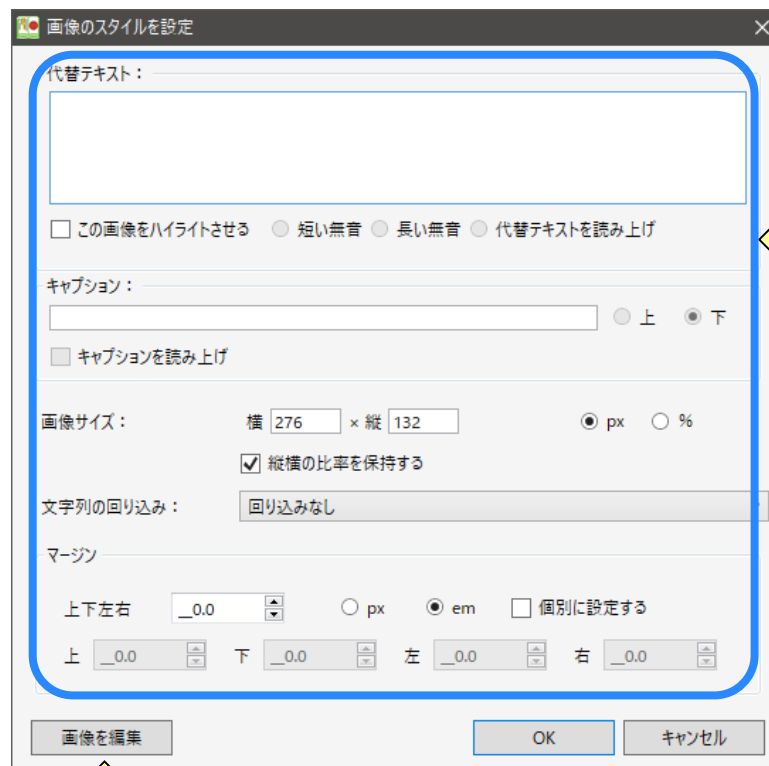
「値」は自動的に振られる
(任意に入りたい場合は値入力)



- 図を編集してみましょう



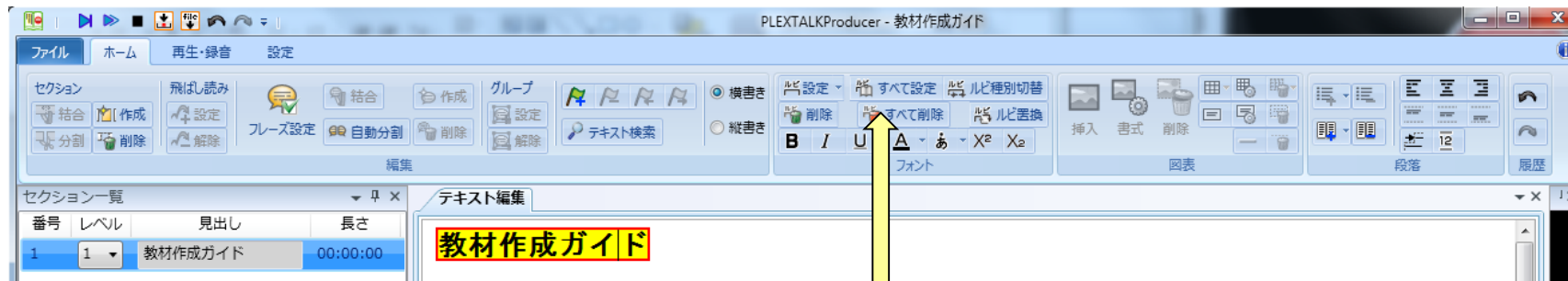
編集する画像をフレーズ選択し、
「書式」を選択



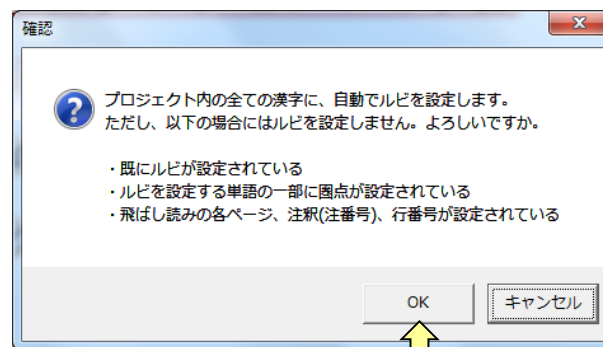
青枠部分は画像
挿入時と同じ
(33ページ参照)

画像の編集・加工をする場合は「画像を編集」を
選択するとWindowsペイントが開きます

- 全ての漢字にふりがなを振ってみましょう（自動ルビ）



ホームタブのフォントから「すべて設定」を選択



「OK」を選択

- テキストやルビを修正して、読み間違いを修正しましょう

① ルビを修正

①-1 ルビを直接修正する

①-2 ルビを置換する

①-3 読み辞書を利用する

② 発音記号を修正

音声合成の読みが修正される

テキストの編集

音声の編集

読み間違い修正 ②

① ルビを修正

①-1 ルビを直接修正する

② 発音記号を修正



再生・録音タブの
「設定」を選択



① 修正する箇所を選択

② ルビ設定・修正を選択

ルビ修正のみの場合、「テキスト編集」上の修正したい箇所をダブルクリックで、ルビ設定ウィンドウが開きます

① ルビを修正

①-1 ルビを直接修正する

ルビを設定してください。
ルビと対象文字列に"/"で熟語ルビの設定が可能です。

ルビ：

対象文字列：

☐ 原本にあるルビ

正しい読みを入力

ルビを設定してください。
ルビと対象文字列に"/"で熟語ルビの設定が可能です。

ルビ：

対象文字列：

☐ 原本にあるルビ

「OK」で修正完了

例：“じゅうさんし”を“じゅうさんじゅうよん”と読み間違い。→ ルビ欄に“じゅうさんし”を入力します。

文字列ルビとモノルビ 漢字毎にルビを振る場合（モノルビ）：ルビと対象文字列にそれぞれ「/（半角スラッシュ）」を入れます。

文字列ルビの場合

ルビ：

対象文字列：



じゅうさんし
十三四

モノルビの場合

ルビ：

対象文字列：

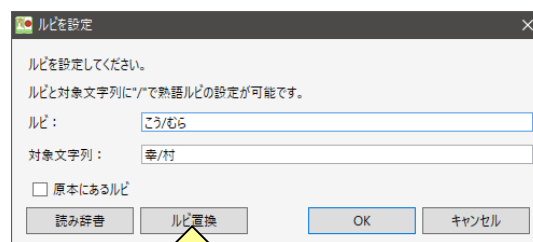
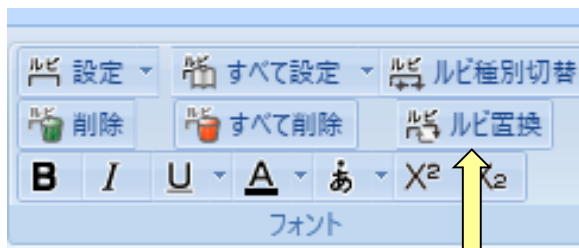


じゅうさんし
十三四

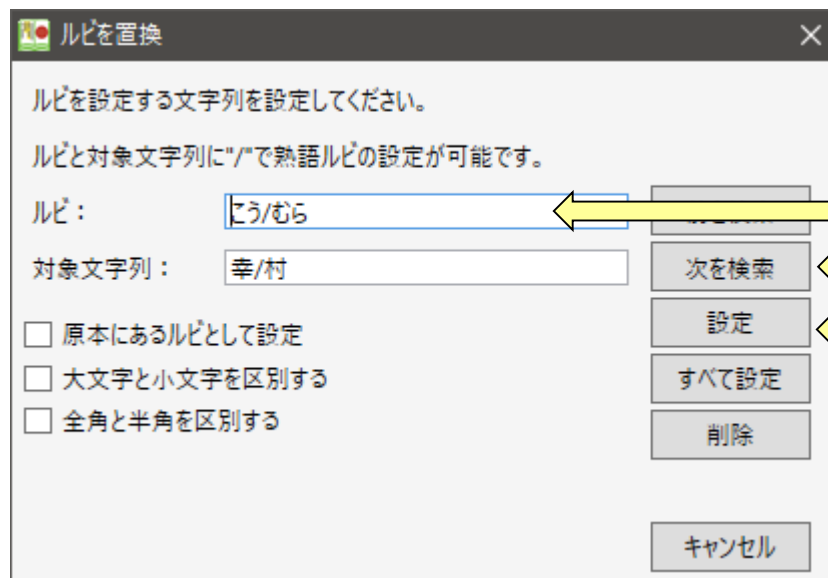
① ルビを修正

①-2 ルビを置換する

頻出する読み間違いはルビ置換や読み辞書(次ページ)で修正します



ホームタブのフォントから「ルビ置換」またはルビ設定画面から



- ① 正しいルビを入力
- ② 次の候補を検索
- ③ 「設定」で変換
「すべて設定」は全置換

① ルビを修正

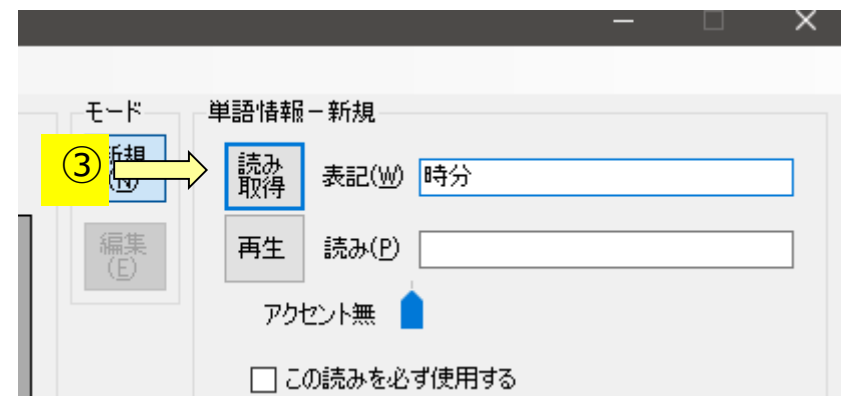
①-3 読み辞書を利用する



再生・録音タブの
「読み辞書」を選択



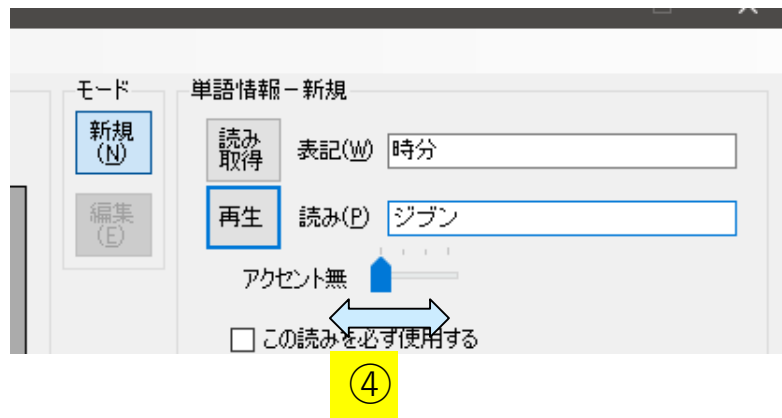
- ① 「新規」で新しい単語を登録開始
- ② 「表記」に登録したい単語の表記を入力



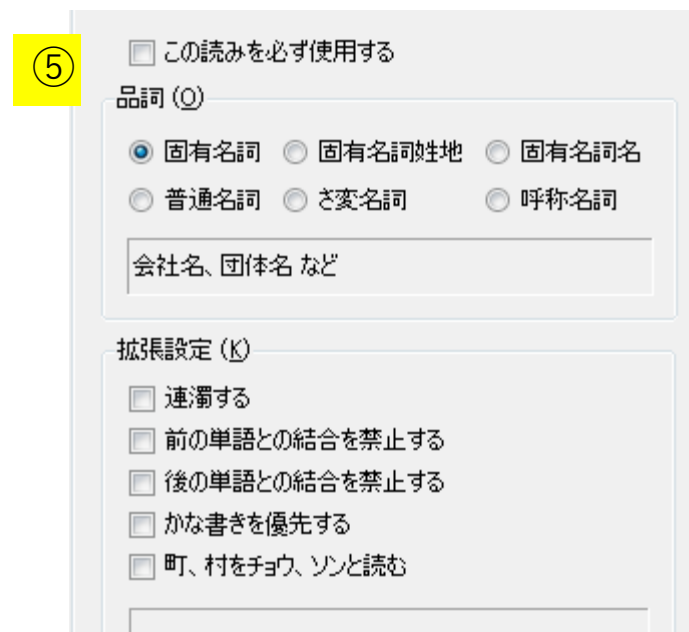
- ③ 「読み取得」で標準の読み情報を取得

① ルビを修正

①-3 読み辞書を利用する



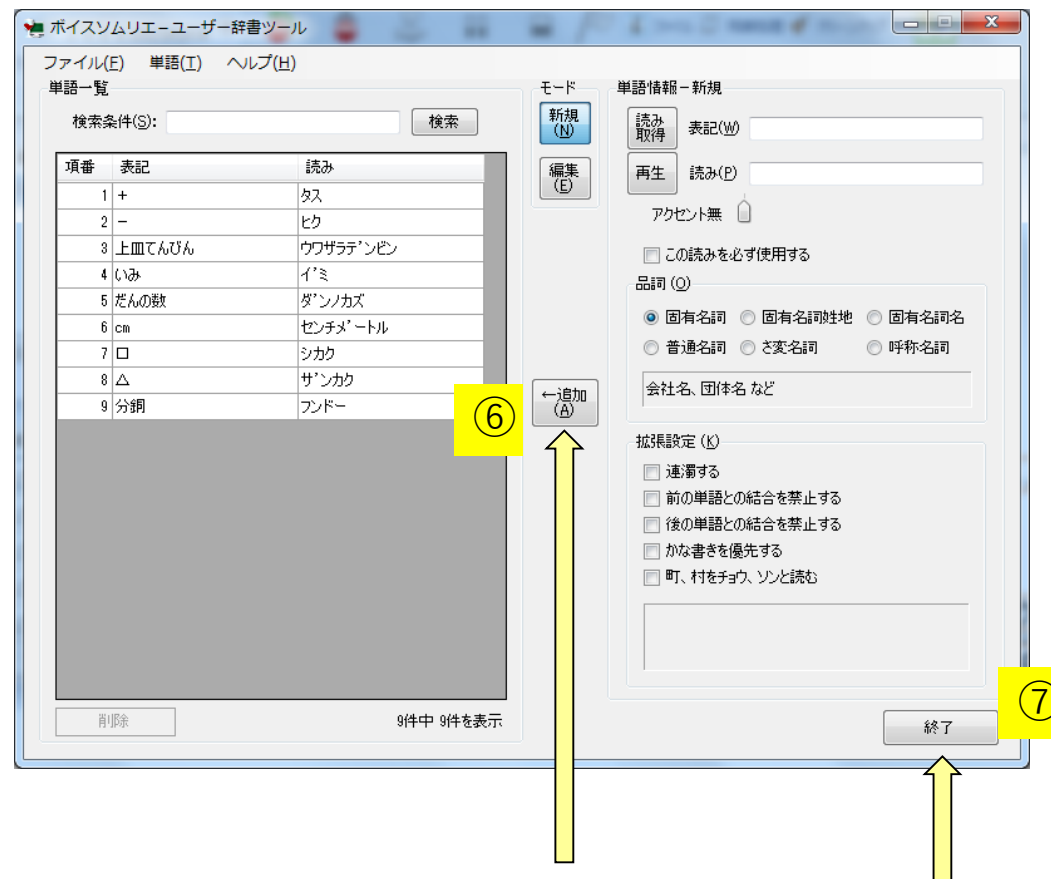
④ 読み方を修正 (アクセントのカーソルを左右に調整)



⑤ 登録する単語の属性を設定

① ルビを修正

①-3 読み辞書を利用する



⑥「追加」で辞書に追加し、⑦ 辞書ツールを保存して終了

① ルビを修正

①-3 読み辞書を利用する

登録しておく则便利な発音：次のようなテキストは、合成音声の初期設定ではローマ字読みをしたり、発音しなかったりしますので、辞書に登録しておく则便利です

文字	インストール時の発音	登録する発音例	備考
+	プラス	たす	
-	(発音なし)	ひく	前の文字が数字の場合は「マイナス」と発音
=	イコール	わ	
cm	シーエム	センチメートル	前の文字が数字の場合は「センチメートル」と発音
○	(発音なし)	まる	
△	(発音なし)	さんかく	
□	(発音なし)	しかく	

② 発音記号を修正



再生・録音タブの
「設定」を選択



① 修正する箇所を選択(黄緑色部分)

② 発音修正で直接入力可能

③ 赤枠のボタンで発音記号を修正
(赤枠ルールは次ページ)

② 発音記号を修正

発音の記号はすべて「半角」で入力する必要があります

発音の記号	発音の種類	備考
' (アポストロフィ)	アクセント	記号の位置を強く読みます。 1つの音節（区切りがあるまで）で1つのアクセントを設定できます
% (パーセント)	無声音	挿入する前の文字を無声音化します
/ (スラッシュ)	アクセント区切り	発音を短く区切ります。文中にアクセントを2つ以上置きたい場合などに挿入すると便利です
(バーティカルライン)	フレーズ区切り	発音を長く区切ります。一拍置きたい場合などに挿入すると便利です(初期状態は300ms)

次ページに続く

フレーズの途中の「無音」時間調整

フレーズの途中に「間（ま）」を入れたい場合は、「|（バーティカルライン）」の後ろに数字を入れると無音の長さを変更できます。(単位はms)

0 : 0、1 : 50、2 : 100、3 : 150、4 : 200、5 : 300(数値を入れない場合も)、
6 : 400、7 : 500、8 : 600、9 : 700

② 発音記号を修正

発音の記号	発音の種類	備考
_ (アンダースコア)	文末ポーズ	文末にポーズを入れます。ポーズの長さは「設定」→「音声合成」の「読点長」で変更できます。 文末に_ (アンダースコア) を入れた数だけ無音を挿入することができます。文末のみ使用可能です
? (クエスチョン)	文末疑問	文末を疑問文にする際に使用します。文末のみ使用可能です
! (エクスクラメーション)	文末驚き	文末を感嘆文にする際に使用します。文末のみ使用可能です
.(ピリオド)	文末通常	通常の文末表現にする際に使用します。文末のみ使用可能です

音声合成の発音について

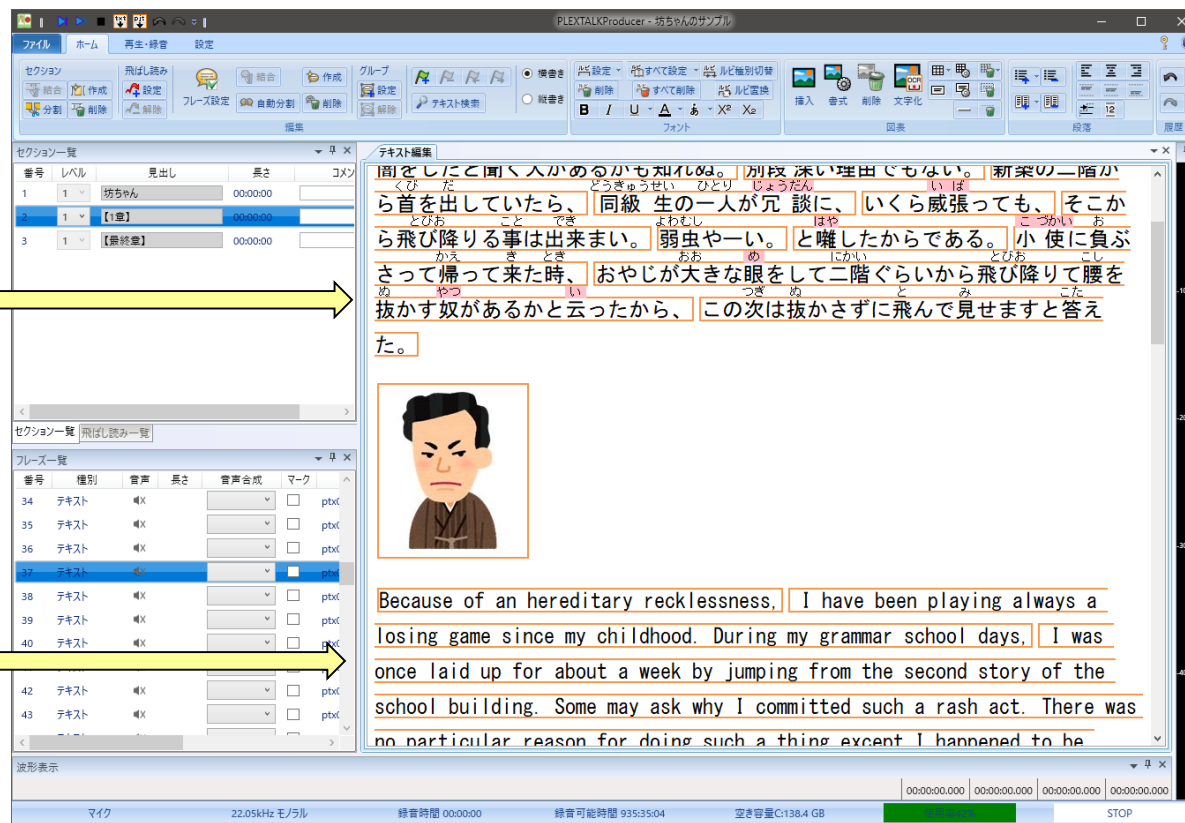
PLEXTALKProducerには、高音質の合成音声が搭載されていますが、読み誤りや修正しきれない発音が発生します。発音の修正に非常に時間がかかったり、デイジー図書を読む方のニーズによっては「録音」機能を使って人の声で録音しましょう。

● SAPI (Windows搭載の音声合成) を使ってみましょう ①

例①. 日本語と英語が入り混じった文章の場合

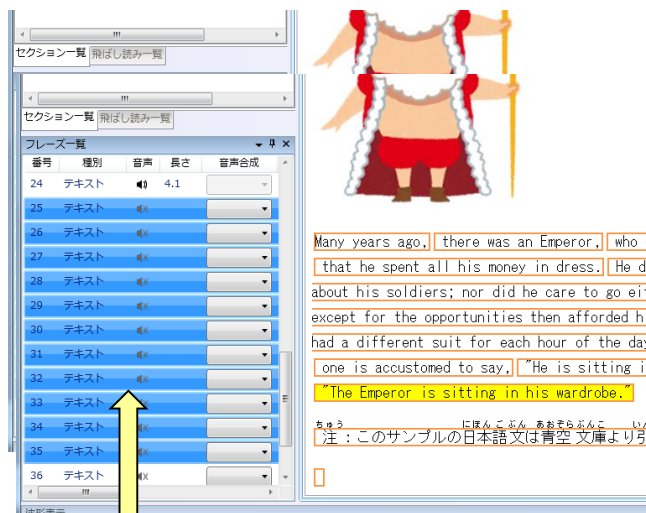
日本語の文章

英語の文章

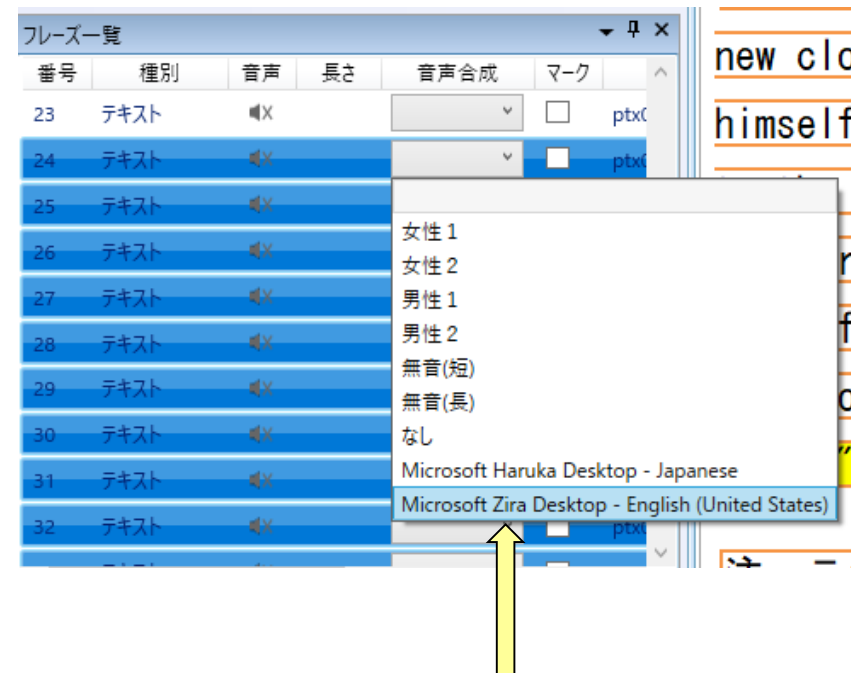


● SAPI (Windows搭載の音声合成) を使ってみましょう ②

例①. 日本語と英語が入り混じった文章の場合



フレーズ一覧で英語で読み上げたい
フレーズを選択
(Shiftキーを押しながら選択します)



「音声合成」一覧から英語の合成音声を選択
(Microsoft Ziraを選択しています。パソコン
環境によって使用できる音声は異なります)

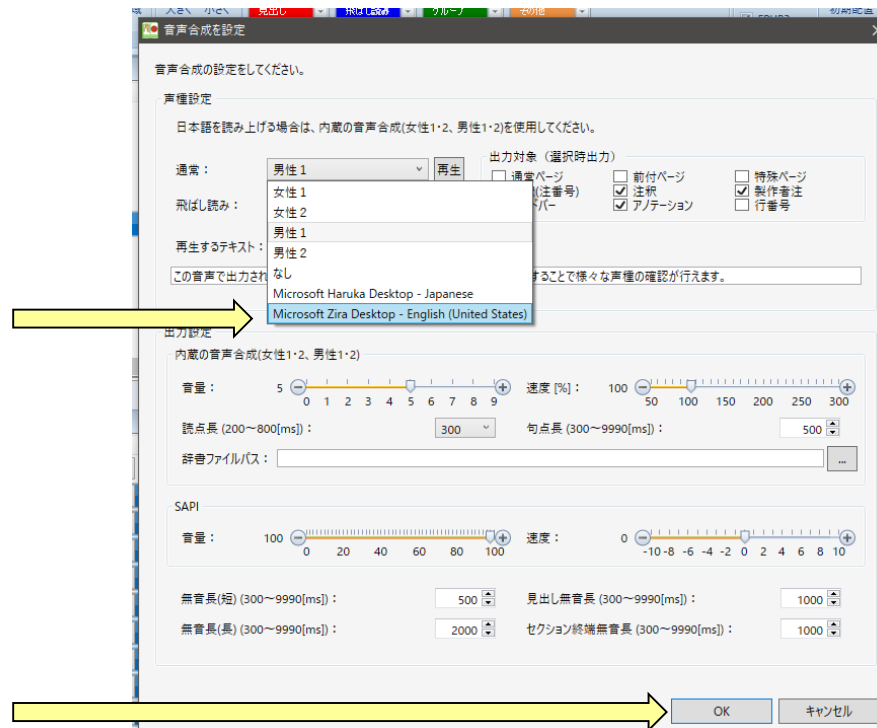
● SAPI (Windows搭載の音声合成) を使ってみましょう ③

例②. 英語のみの文章の場合

設定タブの「音声合成」を選択



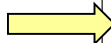
声種設定の「通常」で英語の合成音声を選択
(ここではMicrosoft Ziraを選択しています)



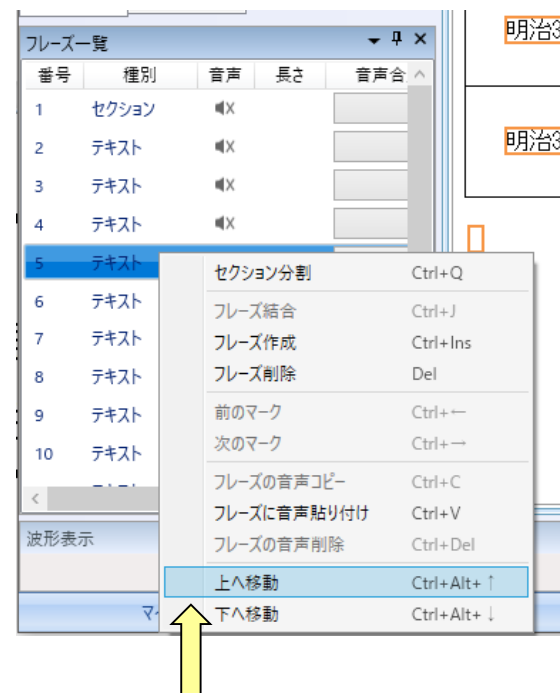
「OK」を選択すると全文英語で読み上げ (一部を変更する場合は例①と同様にします)

● 表の読み順序を変更してみましょう

表の再生順：
行を読んでから次の行を読む



慶應3年	1967年	漱石生まれる
明治23年	1900年	イギリス留学
明治28年	1905年	「吾輩は猫である」発表
明治30年	1907年	教職を辞す
明治39年	1916年	胃潰瘍で永眠



再生する順番を変更するには、フレーズ一覧で移動したフレーズを選択し、右クリックのメニューで「上へ移動」または「下へ移動」

DAISYの表示を変更せず、再生する順番のみ変更できる

設定タブの「録音」を選択

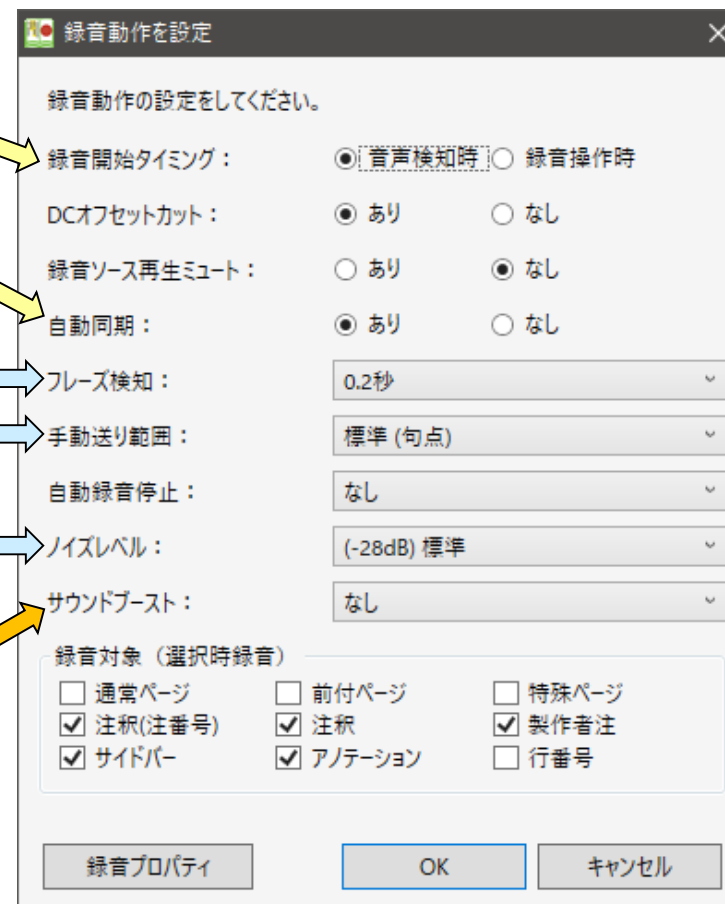


実際に録音が始まるタイミングを決定

録音音声をテキストと自動的に同期して
フレーズに区切る機能

- ① 音声をフレーズとして区切る音声の間（ま）の長さを指定
- ② 1回の自動同期の範囲指定
- ③ フレーズ検出しにくい場合に、ノイズレベルを高くすると検出しやすくなる

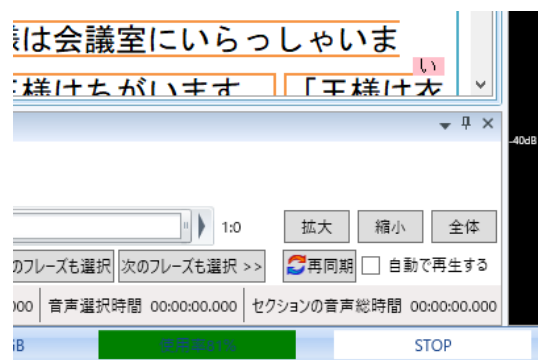
録音音声が小さい場合に調整します。ブーストするとノイズが載る場合があります。



再生・録音タブの「上書き」を選択

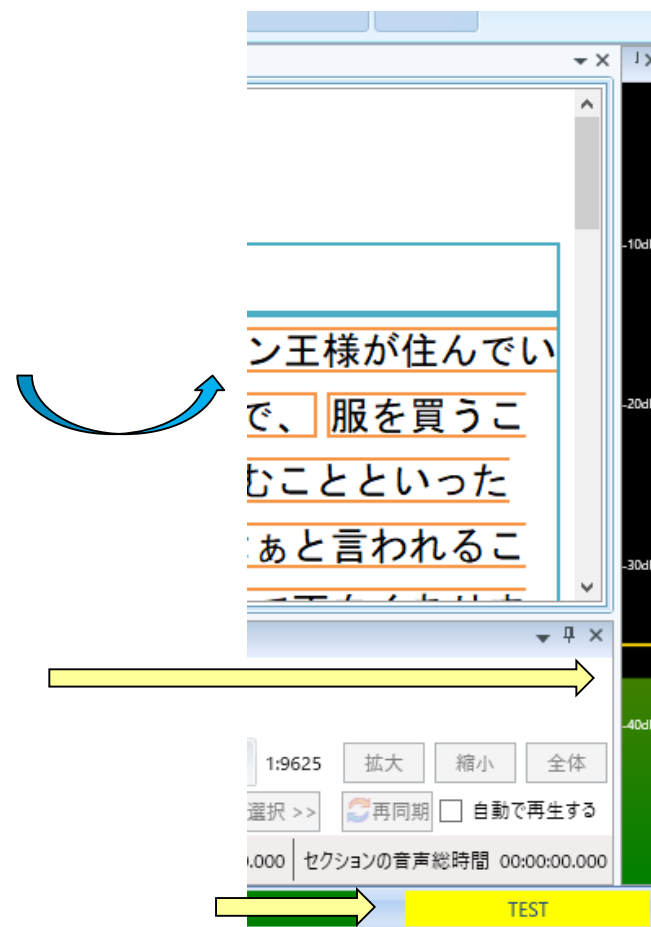


マイク音量調整



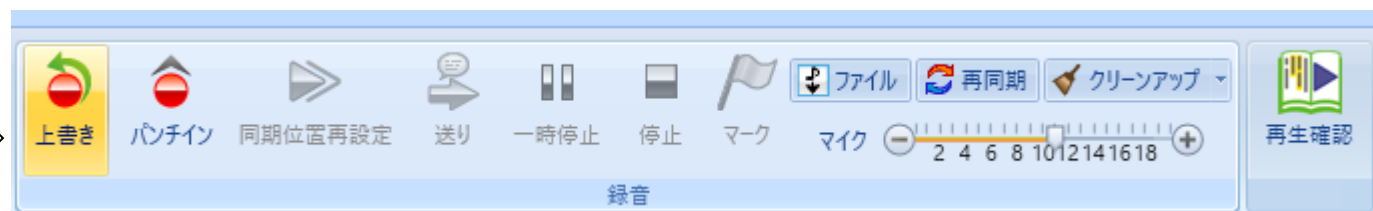
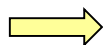
右下の白い「STOP」が黄色「TEST」に変わる

「TEST」は録音音量を確認する状態です。
読み上げてみて、レベルメータが「-10dB」まであがるように録音のマイク音量を調整します

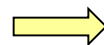


-10dBの線

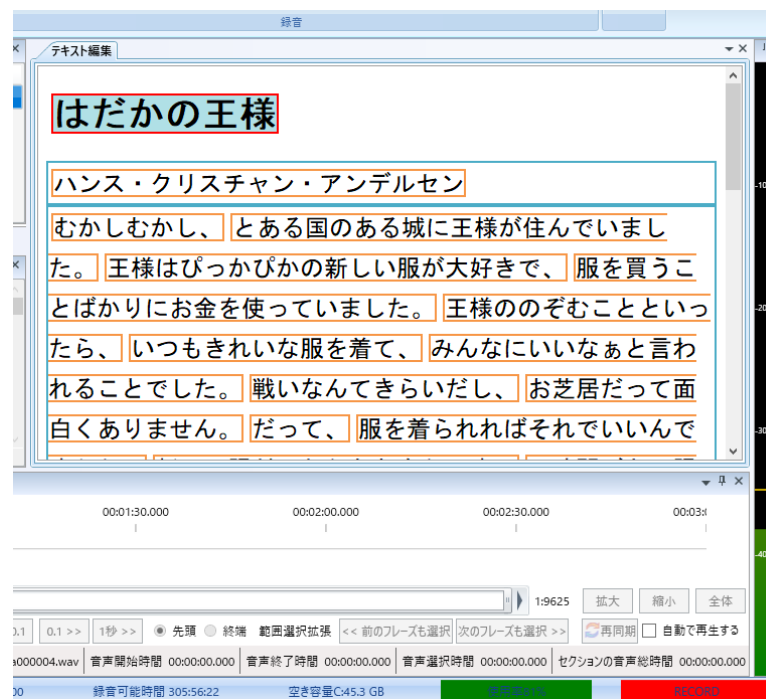
再び、「上書き」を選択
すると録音を開始



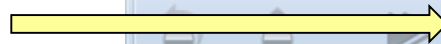
水色に変化したフレーズを
読み上げます（複数フレーズ
まとめて録音も可能）



この時右下の表示は赤い
「RECORD」です



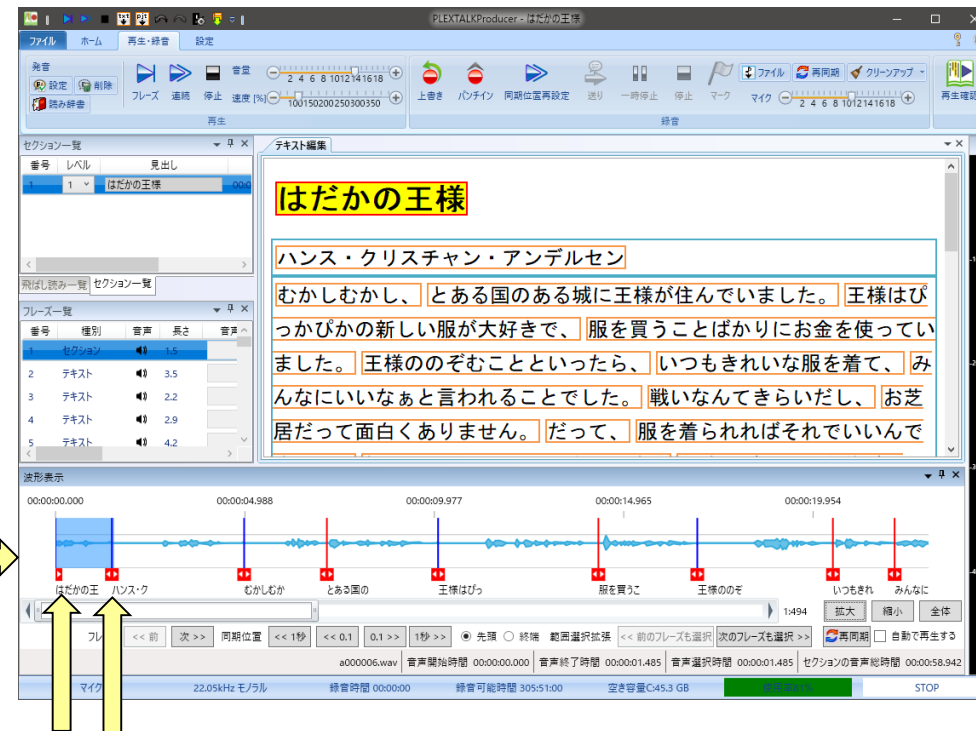
水色を読み上げたら
「送り」を選択して、
次に水色表示された箇所
を読み上げます



音声の編集

録音 ③

録音したい箇所を読み上げた
ら「停止」を選択

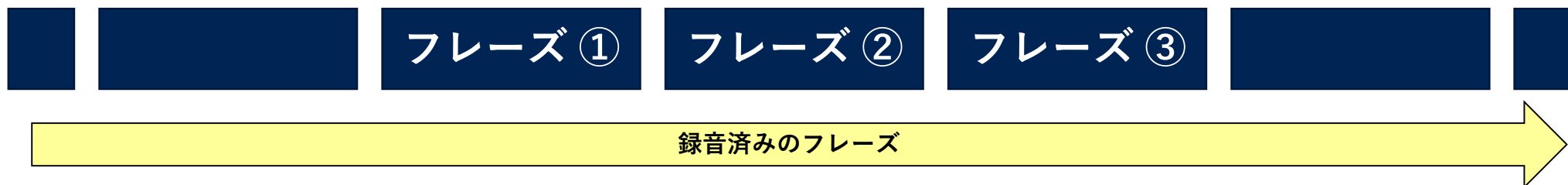


波形表示画面に録音した音声波形が
表示されます。

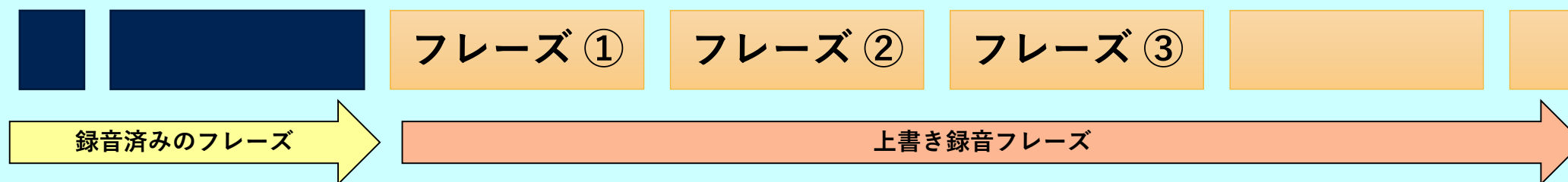
波形表示内の縦線は、フレーズとフレーズの切
れ目を表します。（線と線の間が1フレーズ）

● 上書きとパンチインの違い（録音を修正する場合）

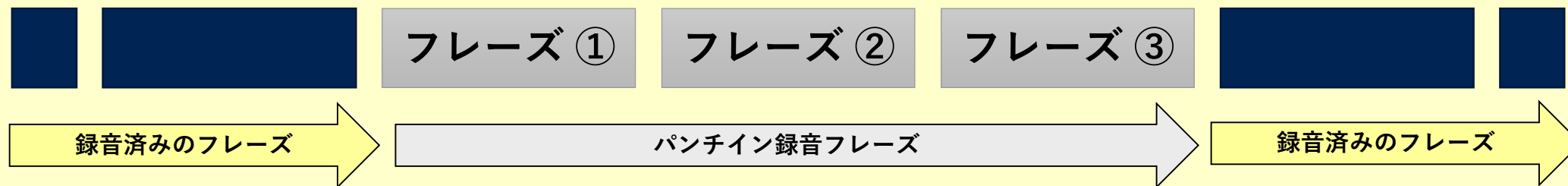
修正前

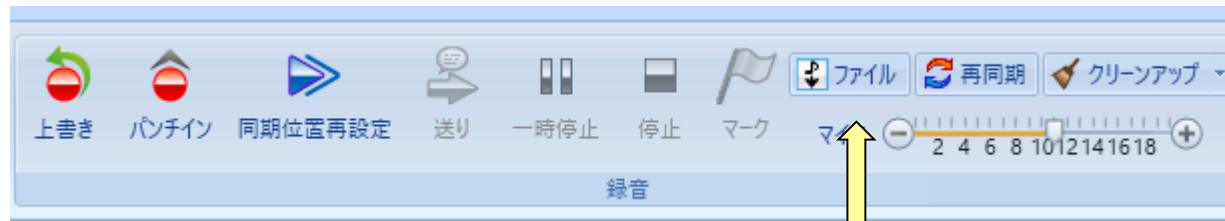


上書き録音：選択した位置から録音します。新規録音時などで使用します。

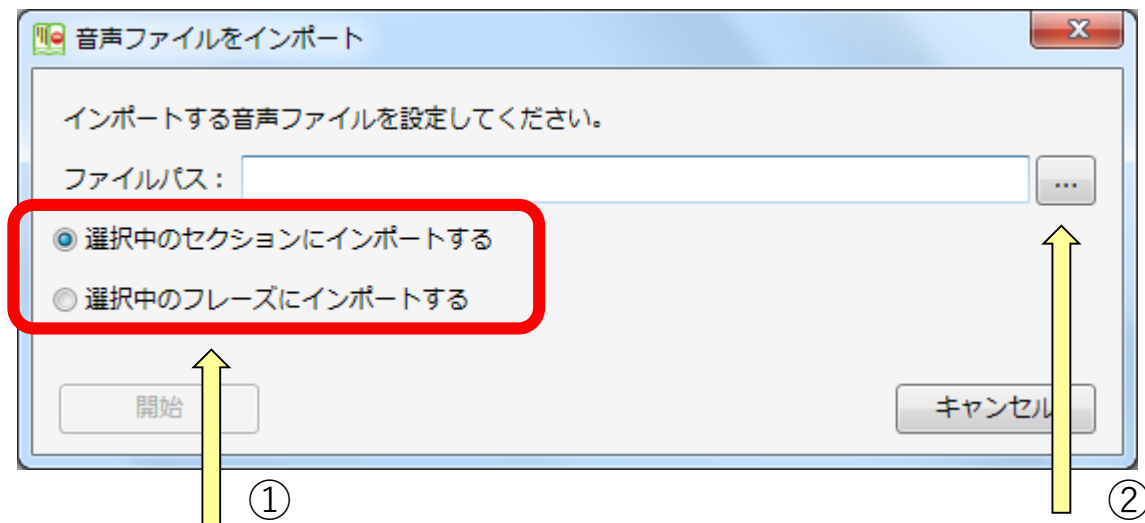


パンチイン録音：録音する範囲をあらかじめ指定して録音します。読み間違いなどの修正で使用します。





「ファイル」を選択



- ① セクションに取り込むか、フレーズに取り込むかを選択
- ② 取り込みたい音声ファイルを選択 (wavまたはmp3)

※ PLEXTALKProducerには、テキストと音声の自動同期機能を搭載していますが、ズレが生じる場合があります。その場合は次のように同期位置を修正します

- 同期位置を手動で調整 方法① マウスを使って同期位置を調整します。

「連続」または「フレーズ」を選択して録音音声の確認



テキストと音声にズレがある場合、赤矢印をドラッグ（左クリックしながら移動）して、変更したい位置に移動するとテキストと音声のズレを修正できます

- 同期位置を手動で調整 方法② ボタンを使って同期位置を調整します。



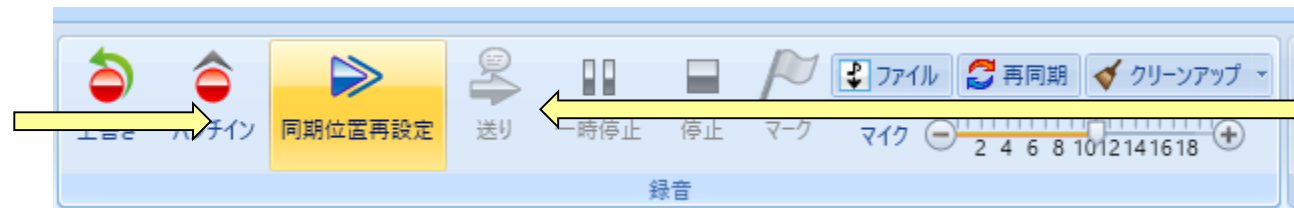
フレーズの先頭位置か、終端位置を変更するかを選択 (赤枠)

同期位置の微調整 (青枠のボタン)

方法①と②は微調整する際に便利です。同期位置を修正するフレーズの数が多い場合は次ページの方法が便利です。

● 再生しながら同期位置を手動で再設定

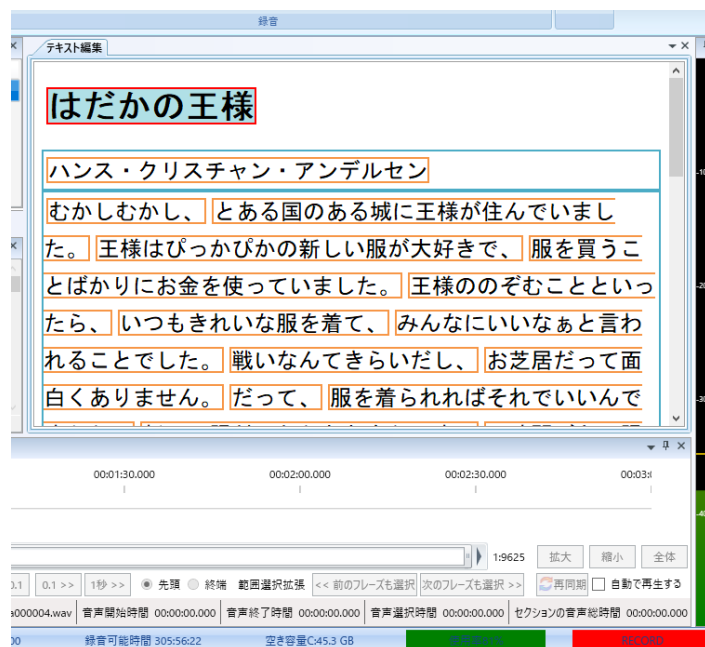
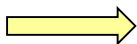
① 「同期位置再設定」を選択



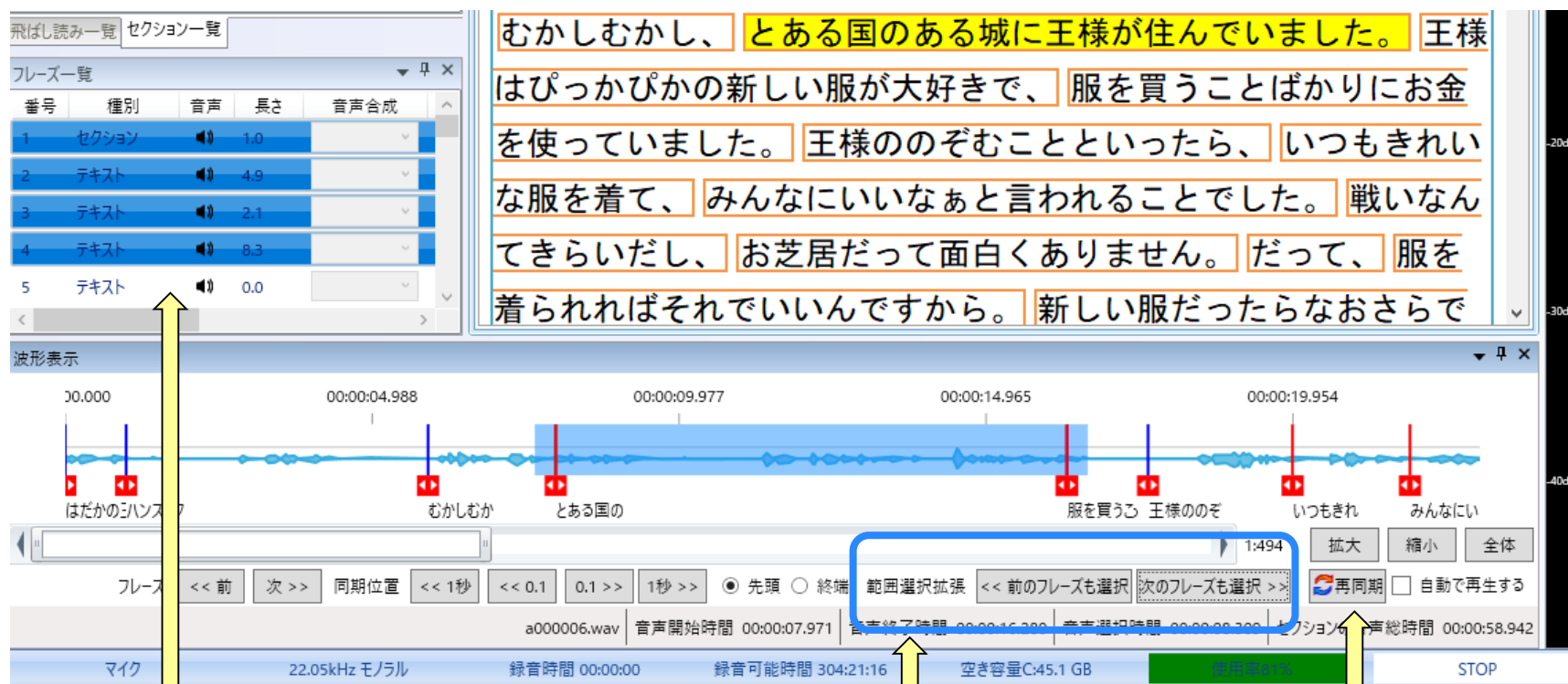
③ 「送り」を選択

「送り」を押した位置で同期を設定します

② 録音した音声が続再生されるので、水色の部分が再生されたら



● 範囲を選択して再同期を自動で行う



① 再同期する範囲を選択（青枠のボタン）

② フレーズ一覧で青色に変更されたフレーズが選択範囲

③ 「再同期」を選択すると選択範囲を再同期処理（再生・録音タブの「再同期」ボタンも同じ機能）

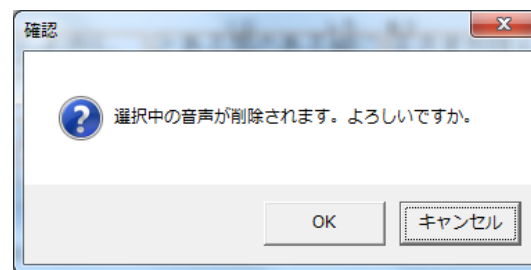
<無音区間の削除>

削除したい波形の部分をドラッグ



右クリックで「音声を削除」
またはDeleteキーを押す

→ 「OK」を選択して削除



<音声のコピーと貼り付け>

無音の時間を伸ばしたい場合などにも使います

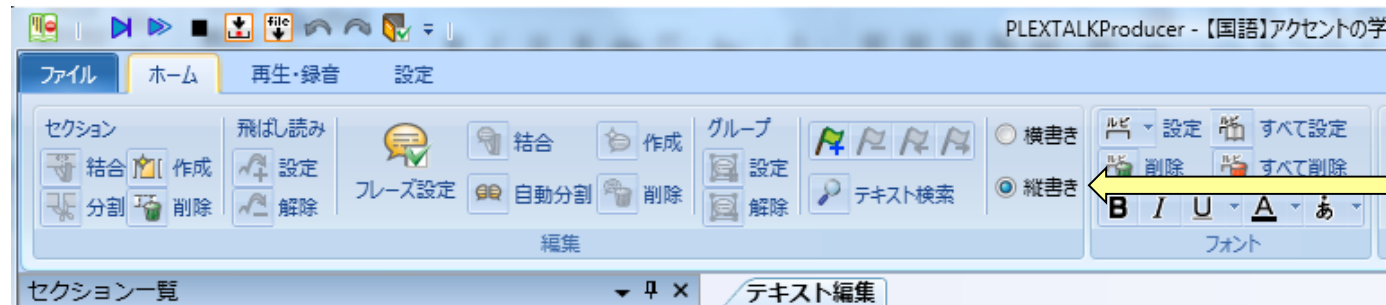
コピーしたい波形の部分をドラッグ

→ Ctrl + Cを押す

→ 貼り付けたい場所を選択し、Ctrl + Vを押す

縦書き表示

- 縦書き/横書きの変更



「ホーム」タブの
「縦書き」を選択

縦書き表示の場合、テキスト編集ウィンドウでマウスのカーソルが消えてしまいます。このため縦書きの教材は横書き表示にして編集し、ビルドブック前に再度縦書きにしてください



「タイトル」：原本書名

「著者名」：原本著者名（改行で複数設定可能）

「原本発行者」：原本発行者

「原本発行年月日」：原本発行年月日（年4桁、月2桁、日2桁）

「ISBN/ISSN」：原本ISBN/ISSN（雑誌）

「言語」：言語を選択（日本語または英語）

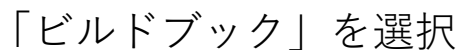
「DAISY発行者」：製作施設・団体名

「DAISY発行年月日」：製作年月日（年4桁、月2桁、日2桁）

書誌情報を選択



製本＝ビルドブックして再生確認



- ① 出力する形式を選択します。次のスライド参照
- ② 出力するフォルダを選択します
(フォルダの中にあるファイルをすべて削除してからDAISY
データを作成します。削除してはいけないファイルがある場合は、
必ず別のフォルダを選択するか、新しいフォルダを作成してください)
- ③ 「開始」を選択すると自動製本されます

※ 赤枠にチェックを入れると製本後に自動的に再生確認ソフトが起動して再生確認できます
※ 青枠にチェックを入れると書誌情報未入力等の警告を非表示にできます

PLEXTALKProducerでは、様々なDAISY再生機器/アプリでDAISY図書が使えるように、6種類の出力形式が選択できます。DAISYを使う機器やアプリによって形式を選択してください。

DAISY2.02 (音声)

音声のみの形式です。テキストや画像は入りません。

DAISY2.02 (マルチメディア)

音声とテキストや画像が入ります。多くの再生機器やアプリで再生可能です。

DAISY3 (テキスト)

テキストと画像のみの形式です。音声は入りませんので、音声は再生機器やアプリの合成音声を利用します。縦書きには対応しません。

DAISY3 (マルチメディア)

音声とテキストや画像が入ります。縦書きには対応しません。

EPUB3 (テキスト)

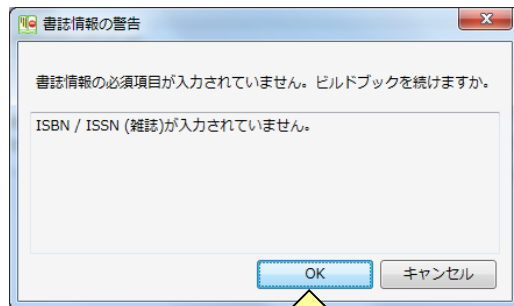
新しいDAISYの規格で、テキストと画像のみの形式です。音声を持たないので、音声は再生機器やアプリの合成音声を利用します。縦書きとルビに正式に対応しています。

EPUB3 (Media Overlays ≡ マルチメディア)

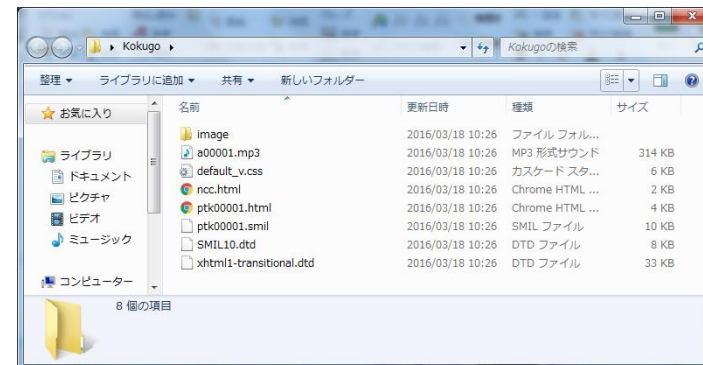
最も新しいDAISYの規格で、音声とテキストや画像が入ります。縦書きとルビに正式に対応しています。

製本 (ビルドブック)

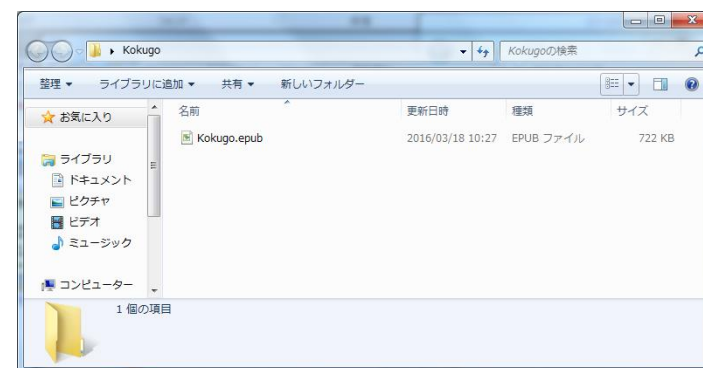
● 完成したDAISYを再生してみましょう



書誌情報の必須項目が入力されていない場合はビルドブック前に「書誌情報の警告」が出ます。
(77ページの青枠にチェックを入れると警告が出なくなります)



DAISY2.02、DAISY3の場合
必要な一連のファイルがフォルダ内に出力されます



EPUB3の場合
「*.epub」ファイルがフォルダ内に出力されます

製本 (ビルドブック)

● 完成したDAISYを再生してみましょう

PLEXTALKProducer付属の再生確認ソフトで再生する

ファイルタブの「開く」から次のファイルを選択して開きます

<DAISY2.02 の場合>

フォルダの中の「ncc.html」ファイル

<DAISY 3 の場合>

フォルダの中の「**.opf」ファイル

<EPUB3 の場合>

「**.epub」ファイル

再生アプリ「イーリーダー」(別売)で再生する

Windows用 : ドキュメント>>eReader>>Contentsフォルダにコピーします。

iPad用 : 次の方法で転送します。(iTunesなど)

<DAISY2.02、DAISY 3 の場合>

出力したフォルダごとzip形式で圧縮したファイル

<EPUB3 の場合>

「**.epub」ファイルをそのまま使用します。

お問い合わせや最新情報は

www.plextalk.com

- ・文部科学省「学習上の支援機器等教材研究開発支援事業」委託事業（平成26年度、平成27年度）
 - ・総務省「デジタル・ディバイド解消に向けた技術等研究開発」助成事業（平成24年度、平成25年度、平成28年度）
 - ・文部科学省「音声教材の効率的な製作方法に関する調査研究」委託事業（平成27年度）
- ※ 一部のDAISY画像用コンテンツ提供：上田市商工観光課・上田市教育委員会文化振興課企画「信州上田 真田氏物語」
- ※ iPadおよびiTunesは米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- ※ WindowsおよびMicrosoft Wordは米国Microsoft Corporationの登録商標です。